長崎県文化財調査報告書 第158集

長崎県埋蔵文化財調査年報８

〔平成11年度調査分〕

２００１

長 崎 県 教 育 委 員 会

はじめに

埋蔵文化財は地域固有の歴史と文化に根ざした歴史的遺産であり，地域の貴重な財産として後世に保存・継承する必要があります。

このような観点から，県においても文化財の保護・活用の積極的な推進に取り組んでいます。遺跡の保護に当たっては，開発事業との事前調整を適切に行い，遺跡の内容把握のための発掘調査が必要であります。

本年報は，平成11年度に県が中心となり県下各地で実施した発掘調査の概要を紹介するものです。今後とも，文化財行政の保護・啓発活動への御理解をお願いいたしますとともに，本書がそのための一助になれば幸いです。

最後になりましたが，本書刊行に際して御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げ，御挨拶といたします。

平成13年3月

長崎県教育委員会教育長　木　村　道　夫

例　　言

1. 本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成11年４月１日から平成12年３月31日までに実施した19箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2. 各遺跡の調査概要中の位置図は，国土地理院発行の地図を使用し，〔　〕内は図幅名を表す。
3. 本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
4. 平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。
5. 各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。
6. 本書の編集は，県教育委員会文化課文化財保護主事 山口浩司 が行った。

本 文 目 次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1

二　県の事業について …… 3

三　県内の研究活動について …… 10

四　調査の動向 …… 11

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 …… 17

六　平成６年度から平成11年度の発掘届等件数・県市町村別職員数の推移 …… 20

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成11年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図 …… 21

①石田城跡(福江市)…… 22　⑧根引池遺跡(江迎町) ……32・33　⑮大崎鼻遺跡(布津町)……44・45

②桐古里遺跡(若松町)…… 23　⑨雪浦清水遺跡(大瀬戸町) …34・35　⑯東田原遺跡(有家町)…… 46

③金石城跡(厳原町)…… 24・25　⑩釜の島遺跡(時津町) …… 36　⑰蒲河遺跡(有家町)…… 47

④金田城跡(美津島町)‥ 26・27　⑪黒丸遺跡(大村市) …… 37　⑱日野江城跡(北有馬町)‥48・49

⑤豊館跡(上対馬町)…… 28　⑫玖島城跡(大村市) ……38・39　⑲日野江城跡(北有馬町)…… 50

⑥長畑馬場遺跡(大島村)… 29　⑬一野遺跡(有明町) ……40・41

⑦平野遺跡(福島町)…… 30・31　⑭森岳城跡(島原市) ……42・43

Ⅲ　平成11年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表 …… 51

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

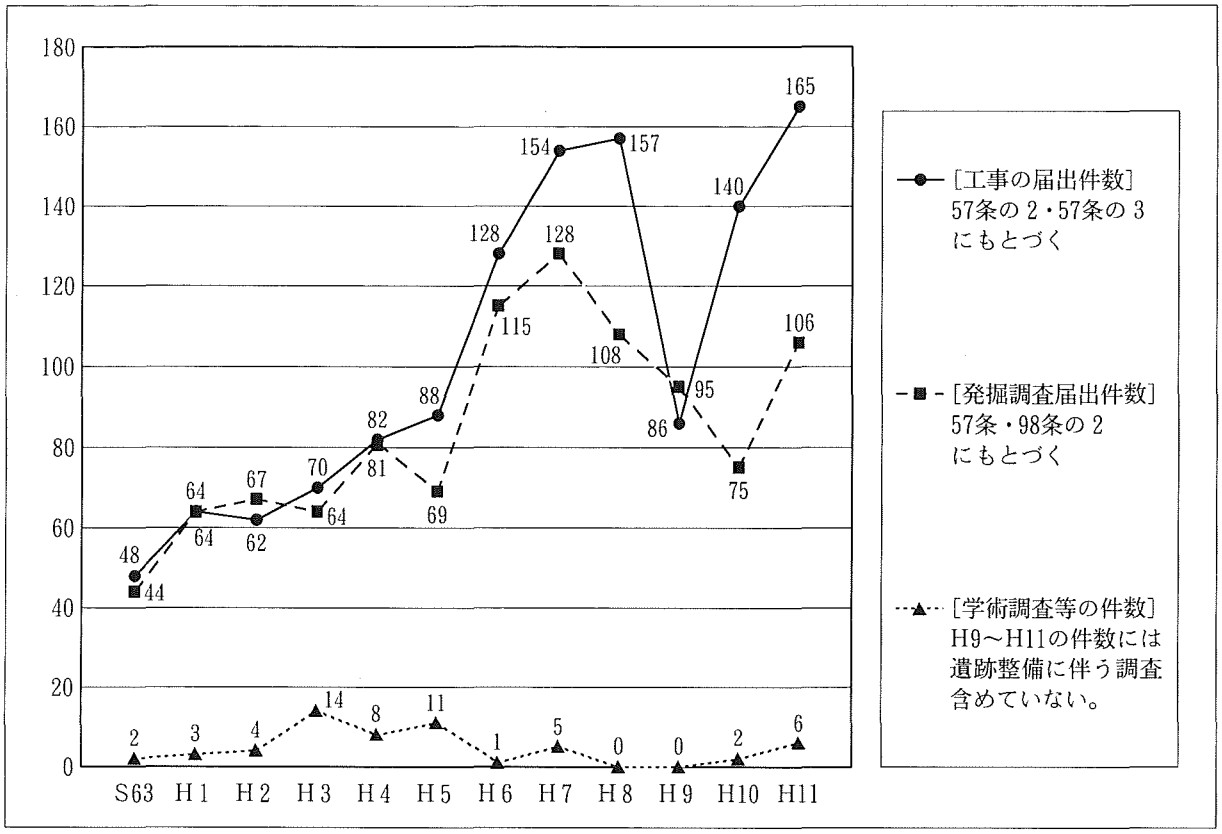
平成11年度の長崎県における開発事業等に伴う［発掘調査届出件数］（法57条・98条の２にもとづく）は106件となっている。この中には市町村が事業主体となって実施している国指定史跡の整備関係調査，及び学術研究調査等は含まれていない。この件数を次頁の各届出件数推移グラフ（長崎県）で見ると，［工事の届出件数］（法57条の２・57条の３にもとづく）の推移におよそ比例しており，開発事業と，埋蔵文化財包蔵地における発掘調査との大きな関わりを改めて理解することできる。また，これらの届出件数は，推移グラフ（全国）と比較しても，全国の各総届出件数の動向とほぼ同様の動きを示している。ただし，推移グラフ（全国）の中で，［発掘調査届出件数］が，平成９年度以来減少し続けている。これは，文化庁より“開発事業との調整を図るために実施する試掘・確認調査の発掘届等については，取扱いが不統一であったが，平成９年度以降は届出等は要しない”としたところであり，全国的な［発掘調査届出件数］の減少にはこうした背景が一因となっている。

では，県内の発掘調査を事業別にみると，その内訳は（表１）のとおりである。住宅・その他の建物・宅地造成と農業関連事業が圧倒的に多く，道路関係事業がこれに次いでいる。これら三種の事業で，全発掘調査数の約71％の割合を占め，件数を伸ばした結果，届出の総数としては115件と，前年度の79件に比較して増加傾向にある。さらに，学術研究関係も６件と増加しているが，ここには，大学による調査のほか，11年度より緊急雇用対策事業のために実施された調査を含むことが特徴づけられる。また，提出された土木工事の届出等件数は165件であり，大きく落ち込んだ平成９年度の86件以来，平成10年度の140件に続き増加し，過去最高を記録した。そのうち，範囲確認調査を実施したのは82件で，残りが工事立会と慎重工事となっている。さらに，範囲確認調査の結果，工事との兼ね合いからも本調査を実施したのは35件であった。それらの主な遺跡については，本年報に概要を記載している。

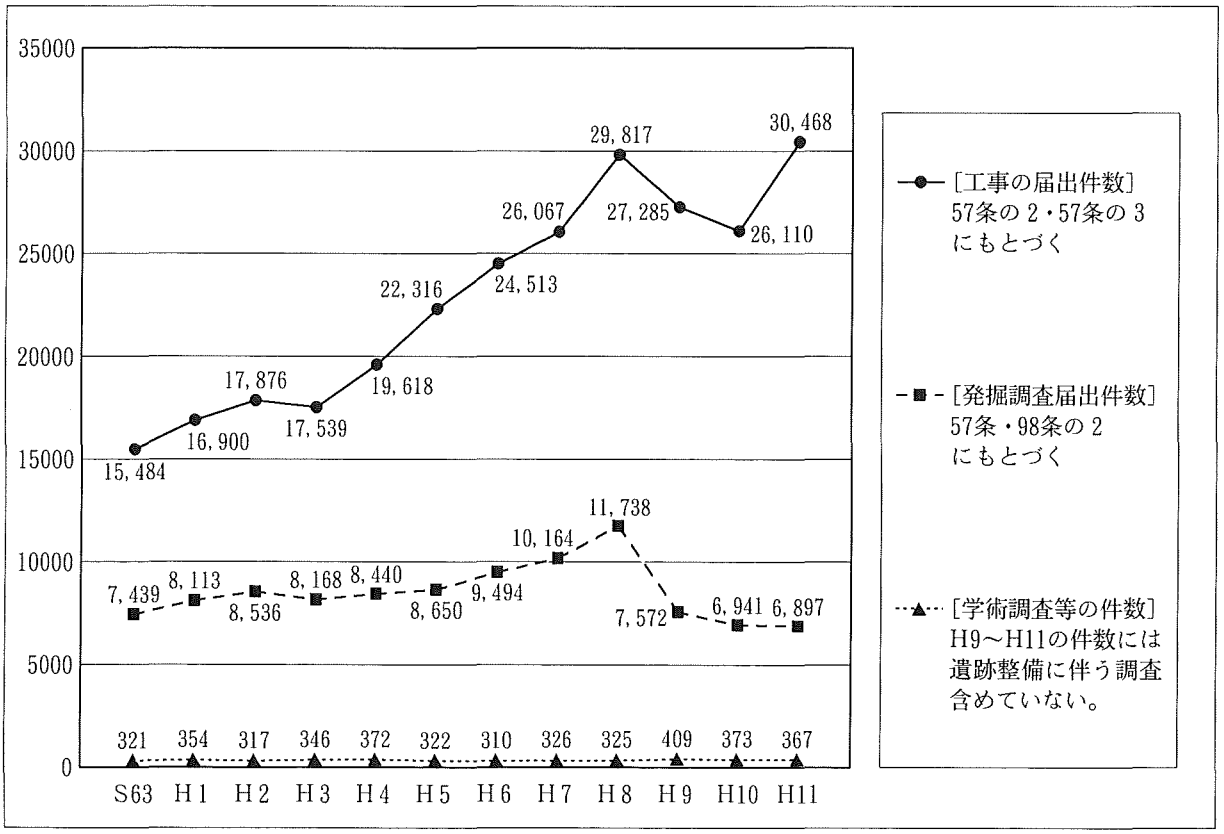
（表１）平成11年度
事業別発掘調査届出件数

	区分	件数
緊急調査	道路	15
	河川	2
	学校	4
	住宅	10
	個人住宅	4
	工場	1
	その他建物	5
	宅地造成	14
	公園造成	2
	観光開発	1
	農業基盤整備	1
	その他農業	33
	その他開発	14
	遺跡地図作成等	2
	遺跡整備	1
学術研究		6
合計		115

工事の届出・発掘調査届出等件数の推移グラフ（長崎県）



工事の届出・発掘調査届出等件数の推移グラフ（全国）



一方，県内の埋蔵文化財関係職員数についてみると，県では県文化課に15名（含嘱託５名），原の辻遺跡調査事務所６名の計21名となっている。また，県内の市町村には８市21町に42名（含嘱託６名）が配置されている。県内79市町村のうちの29市町村であり，毎年僅かづつ増加傾向にあるが，県全体の37％ほどの市町村にしか埋蔵文化財関係の職員がいない状況を示している。専門職員未配置町村の発掘調査事業に対し，県が充分に支援・対応できない状況下にある。今後，ますます地方分権が進められる中，地元の文化財は地元で管理する必要性からも，埋蔵文化財担当専門職員の配置が促進され，発掘調査の円滑・迅速な対応が図られることが必要であろう。

二　県事業について

１　埋蔵文化財の開発に伴う現地踏査及び発掘調査

県文化課では，各開発行為に伴い現地調査を実施し，その結果に基づいて埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い文化財の保護・保存に努めている。その協議の結果，範囲確認調査や緊急発掘を実施している。

今年度，県文化課が主体となった調査内容は次のとおりである。

本調査に至る

・ＬＰＧ国家備蓄福島基地建設事業関係　　平野遺跡（福島町）

・国道34号大村拡幅計画事業関係　　玖島城跡（大村市）

・島原高校体育館改築事業関係　　森岳城跡（島原市）等の発掘調査を実施した。

範囲確認調査として，

・五島高校体育館改築事業関係　　石田城跡（福江市）

・久原養護学校校舎建築工事関係　　黒丸遺跡（大村市）

・国道206号線改良工事関係　　釜ノ島遺跡（時津町）

・有家港海岸保全工事関係　　蒲河遺跡（有家町）等の発掘調査を実施した。

また，県内各市町村事業に伴い県が調査担当及び支援した主な遺跡は次のとおりである。

・遺跡整備事業関係　　金田城跡（美津島町），金石城（厳原町），日野江城跡（北有馬町）

・町道拡幅事業関係　　豊館跡（上対馬町）

・圃場整備事業関係　　長畑馬場遺跡（大島村）

・広域農道計画事業関係　　根引池遺跡（江迎町）

・河川改修工事関係　　雪浦清水遺跡（大瀬戸町）

・公園整備事業関係　　大崎鼻遺跡（布津町）

・農道改良事業関係　　東田原遺跡（有家町）

・駐車場造成事業関係　　日野江城跡（北有馬町）等の発掘調査を担当・支援した。

以上の発掘事業のほかに，調査終了した遺跡の報告書刊行事業を行った。これらの発掘調査事業は

報告書の刊行をもって事業完了となるが，刊行までには発掘調査に従事した期間と同等かそれ以上の整理期間を必要とする事業である。（山　口）

2　埋蔵文化財普及啓発活動の推進

・開発部局担当者基礎講座

日時：平成11年６月９日(水)～６月10日(木)

場所：長崎県勤労福祉会館

本講座は県内の国・県・市町村の開発部局の担当者を対象に，埋蔵文化財保護行政の概要を解説し，理解や協力をうることを目的とした。

昨年まで，県内の各教育事務所管轄地ごとに会場を設け，文化課の担当者が出向き，分散して開催してきたが，今年度より長崎市において集中的に開催することにした。さらに巡検地に出向き，実際の発掘調査現場や資料館などを見学することによって，開発担当者の埋蔵文化財への理解の一助にしてもらうことにした。参加者は120名である。

内容は埋蔵文化財に関する諸手続の解説のあと，発掘調査の円滑化に関する説明をおこなった。午後からは文化庁記念物課　坂井秀弥文化財調査官による「埋蔵文化財保護行政の現状と展望」と題する講演をおこなった。

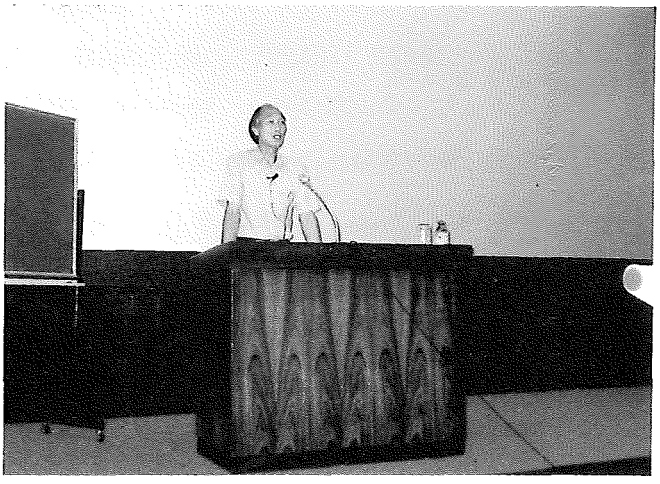
二日目は，貸切バス２台に分乗して，長崎市出島遺跡の発掘現場の見学ならびに，諫早市郷土館の見学をおこなった。

・埋蔵文化財実践講座

日時：平成11年８月17日(火)～８月19日(木)

場所：長崎県町村会館

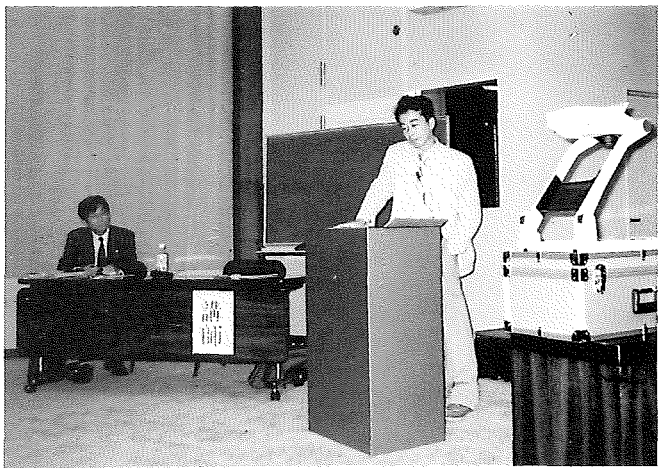
本講座は昨年まで発掘技術研修［専門課程］という名称で11年間継続して実施してきたものだが，近年，教職員や一般の方も多く参加することから，発掘技術の専門的内容に限定せず，幅広く「埋蔵文化財」全般をあつかう研修にしたいということで，今年度から名称を新たに「埋蔵文化財実践講座」として実施することとなった。参加者は100名であった。



埋蔵文化財実践講座　講師：光谷 拓実 氏

今回は奈良国立文化財研究所の光谷拓実氏より「年輪と文化財－年輪から日本の歴史を再構築する－」をテーマに，古環境研究所の早田勉氏から「テフロクロノロジー－火山灰を利用した編年法－」という題で講義をいただいた。

光谷氏はわが国における年輪年代測定のパイオニアであるが，大阪府池上曽根遺跡の柱根をもとに，これまでの土器をもとにした年代観から西暦50年とみられていた建物の年代の上限を紀元前52年ないし，紀元前56年と判定され，従来の説より100年ほど古いことを発見され，通説を覆された。



埋蔵文化財実践講座　講師：早田　勉 氏

早田氏は火山灰を使った編年学の基礎理論を紹介されるとともに，世界最古の土器の問題や，旧石器から縄文草創期の編年の問題，さらには噴火災害史にもふれられ，興味深い講義を展開された。

・長崎県市町村文化財担当者会議

日時：平成11年９月17日（金）

場所：県庁新別館９階会議室

県内の文化財担当者を集めての，毎年恒例の会議である。本年度は地方分権にかかわる文化財保護法の改正の問題，公共事業と埋蔵文化財調査の円滑化の問題，出土遺物の取り扱いの問題などを中心に，解説と質疑応答をおこなった。参加者は65名であった。

・公共工事と埋蔵文化財保護にかかる連絡調整会議

日時：平成12年２月18日（金）

場所：県庁新別館９階会議室

本県におけるこれまでの各種開発事業との調整は，農業関係事業以外については，そのつど必要な個別協議を重ねることで対処してきたが，平成９年度から，これまでの個別協議に加え，国・県・公団などからなる公共工事関係部局と文化財保護部局との定期的な連絡協議の場を設けた。

今年度は埋蔵文化財の保護について，埋蔵文化財発掘調査の円滑化について，発掘調査の期間・費用の算出について，長崎県の主な遺跡と史跡整備についての解説と質疑応答をおこなった。参加者は50名であった。

３　ふるさと古代遺産保存継承事業

①主要遺跡内容確認調査

県内には3,700箇所あまりの埋蔵文化財包蔵地が周知されているが，この内155の遺跡については，本県の特質をよく伝える重要な遺跡として把握している。しかし，それらの遺跡についても，その内容が十分とはいえない面もあり，僅かづつではあるが，緊急度や地域性などを考慮しながら内容確認

調査を継続している。

今年度は若松町の桐古里(きりふるさと)遺跡と有明町の一野(ひとの)遺跡について実施した。桐古里遺跡はこれまで正式な発掘調査が実施されておらず，遺跡の実態を確実に把握することができなかったが，長期にわたる豊富な遺物を包蔵しており，上五島地区を代表する遺跡の一つである。

一野遺跡は昭和27年，石棺数基を出土して以来，度重なる調査の中で，縄文期の包含地ほか，弥生～古墳時代の墳墓群を含む複合遺跡として知られている。以上の調査結果については，平成12年度刊行の『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ』に詳しい。　（古　門）

②親子古代技術体験事業

県では，「人づくり」をテーマとして様々な事業を進める中で，ふるさとと共に生きる人材の育成にも努めている。その一環として，今年度より『親子古代技術体験事業』を開始した。この事業は，親子の触れ合いの場を提供することと，郷土の歴史に興味関心を深めてもらうことを目的としている。親子で協力して火おこしや勾玉づくりなど体験的な活動に取り組み，楽しんでもらうことで，文化財保護の大切さを地域の人たちや子どもたちに理解してもらおうとするものである。

具体的には，文化課職員が県内の小学校に出向き，高学年児童及びその保護者を対象に，ゆとりの時間や余裕教室等を利用して実施するもので，内容は古代技術体験として“舞きり”を使った『火おこし』と，軟らかい石をブロックやヤスリで削って作る『勾玉作り』などである。併せて小学校周辺にある遺跡の紹介や，県内の遺跡から出土した本物の遺物にも実際に触れてもらい，その使用方法等の説明を行った。11年度は７校を訪問した。事業実施校は次のとおりである。

	日　　時	実　施　校	児童数（人）	保護者数（人）
1	6月18日5・6校時	長崎市立西山台小学校	49	23
2	7月8日2・3校時	私立精道三川台小学校	23	6
3	7月15日5・6校時	高島町立高島小学校	11	5
4	9月14日5・6校時	福島町立養源小学校	24	11
5	10月19日5・6校時	西有家町立西有家小学校	75	21
6	11月17日3・4校時	佐世保市立俵浦小学校	31	5
7	12月3日2・3校時	福江市立崎山小学校	41	5
合計			254	76

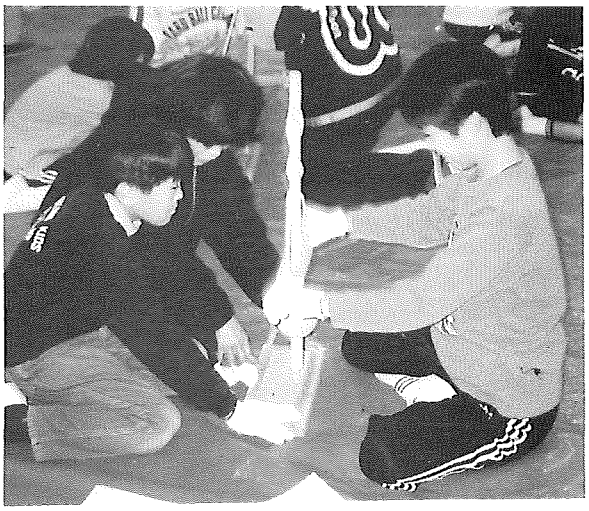
実施後，児童・保護者・教師を対象にアンケート調査を行ったところ，全実施校にわたり，事業は全体的に高い満足感が得られ，好評のうちに終了したことがわかる。多くの保護者に事業に対する理解が得られ多数の参加をいただいた。児童にも古代の生活や郷土の歴史への興味を喚起できたと思う。

全実施校の参加児童の反応を，アンケート項目ごとに割合（%）で示すと次のようになる。

アンケート集計結果（全実施校参加児童）

項目＼評価	◎	○	△	×
①親子古代技術体験事業は楽しかったですか？	91%	8%	1%	0%
②昔の人たちの生活に興味がもてましたか？	53%	32%	14%	1%
③火おこしは楽しかったですか？	68%	17%	8%	7%
④火おこしはうまくいきましたか？	31%	19%	22%	28%
⑤勾玉作りは楽しかったですか？	86%	12%	2%	0%
⑥勾玉作りはうまくいきましたか？	44%	32%	17%	7%
⑦仲間（保護者）と協力して作業できましたか？	65%	21%	11%	3%

（◎…大変良い ○…良い △…ふつう ×…あまり良くない）



親子古代体験事業（火おこし）於：俵浦小学校

事業内容を個々に省みると，まず『火おこし』は，児童にとってたいへん楽しく取り組むことができたという評価が得られたが，時間内に火をおこせなかったグループもあり，「楽しかったが達成感がいまひとつ得られなかった」という結果がうかがわれる。今後，火おこしの道具の設定を均一な状態に整備し，全グループに火おこしが成功するよう指導したい。また『勾玉作り』は，火おこし以上に楽しく取り組めたとの評価を得た。児童一人一人が造形したものを持ち帰ることができる点が，好結果につながったものと思われる。「次の日に勾玉を首から下げて学校に来る児童がいた」と聞き，「家に持ち帰って続きをした」との声が寄せられ，たいへん喜ばしく思った。一方，時間的な制約からか，満足のいくまで仕上げられなかった児童の様子もうかがわれるが，児童が勾玉の基本的な“形”を立体感としてつかみにくいことが，その要因として考えられる。今後，あらかじめ原石に削る箇所を鉛筆で下書きさせるなど，指導方法を工夫したい。また『小学校周辺の遺跡の紹介』については，火おこしと勾玉づくりに多くの時間をかけたため，不十分な時間で終わった学校があった。今後，紹介の方法にも，スライドやＯＨＰ等の視聴覚機器をとりいれるなど工夫したい。（山　口）

4　原の辻遺跡保存活用・保存整備事業

中国の歴史書『魏志倭人伝』に記載された「一支国」の王都として特定された原の辻遺跡の特性を活かした保存整備を促進し，地域振興の核として活用・活性化を図るために，県では原の辻遺跡関係事業として保存活用事業と保存整備事業を実施している。平成11年度の事業内容は，以下の項目などである。

①原の辻遺跡保存活用事業

・原の辻遺跡の範囲確認調査（国庫補助）

・原の辻遺跡調査事務所と壱岐・原の辻展示館の管理運営

・九州北部三県姉妹遺跡締結記念「三遺跡交流こどもフォーラム」の開催

・調査指導委員会の開催

・要覧，原の辻ニュースレターの発行

・展示用遺物の複製・保存処理，記録用ビデオ作成

・出土遺物整理（緊急地域雇用特別交付金対策事業）

②原の辻遺跡保存整備事業

・史跡整備のための調査・保存整備委員会の開催（国・県補助）

・土地の公有化（国・県補助）

・重要遺構の特定調査

・拠点遺構発掘調査（緊急地域雇用特別交付金対策事業）

①と②の両事業は，管理運営，保存整備・公有化，保存活用，普及啓発，発掘調査・遺物整理などの内容に大別される。平成11年度の新しいメニューは，九州北部三県姉妹遺跡締結記念事業として「三遺跡交流こどもフォーラム」が原の辻遺跡で開催されたことと，緊急雇用の平成13年度までの事業として出土遺物整理事業と拠点遺構発掘調査事業が開始されたことである。「三遺跡交流こどもフォーラム」と原の辻遺跡調査事務所が行った発掘調査の概要について述べる。

③「三遺跡交流こどもフォーラム」の開催

佐賀県の吉野ヶ里遺跡，福岡県の平塚川添遺跡と原の辻遺跡の３つの遺跡が，平成11年１月21日に姉妹遺跡の締結を行い，その記念事業として長崎県が幹事県となって実施したのが本事業である。12年度は佐賀県，13年度は福岡県が幹事県として持ち回り事業を行う予定である。

・日時　平成11年８月４日（水）　13：30～17：00
　　平成11年８月５日（木）　8：45～13：00

・場所　芦辺町クオリテイーライフセンター
　　つばさイベントホール
　　原の辻遺跡，壱岐・原の辻展示館，
　　石田町農村改善センター

・対象　長崎県，福岡県，佐賀県の小学校
　　６年生と保護者　約120名

・内容　第１日目　土器の復元，
　　壱岐・原の辻展示館見学，発掘体験
　　第２日目　こども会議，遺跡見学

発掘体験風景

第１日目は，つばさイベントホールで開会式のあと，こども達は丹塗壺（にぬり）のレプリカの土器復元を行い，パズルのように土器の形が出来上がっていく楽しさを味わった。この後，展示館に移動して展示物と調査現場を見学して遺跡の様子をあらかじめ学んだ上で，祭儀場近くの現場で各班に分かれて発掘を開始した。復元の時間が延びて移動等に手間取り，やや時間が短かくなったが，こども達は土器などを掘り出して歓声をあげていた。

第２日目は，佐原真（さはらまこと）（国立民俗博物館館長）氏に「大昔と私たち」という題で分かりやすく話をし

ていただいた後に，10班に分かれて「原の辻遺跡」「平塚川添遺跡」「吉野ヶ里遺跡」「おしゃれ」「食べ物」「戦い（攻める）」「お祭り」のテーマで各班で話し合い，まとめて発表を行った。発表については，最後に佐原先生に講評をいただいた。遺跡見学は，壱岐国分寺，鬼の窟古墳，掛木古墳，双六古墳，車出遺跡，岳の辻公園などを3台のバスに便乗してまわり，石田町農村改善センターで解散式の後，それぞれ帰途についた。こども達は短い2日間の交流ではあったが，楽しい思い出ができ，充実した体験ができたのではなかろうか。

④原の辻遺跡調査事務所が行った発掘調査概要

・原の辻遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）

平成11年度の国庫補助事業に伴う範囲確認調査は，台地北西の低地の芦辺町不條地区（300㎡）と台地南部の石田町柏田・苣ノ木地区（1,000㎡）について計1,300㎡を発掘した。不條地区では，弥生中期に掘られた2条の濠，弥生中期から古墳前期初頭の旧河道と旧河道を埋めて設けられた古墳前期の溝が検出された。柏田・苣ノ木地区では旧石器時代の包含層が確認され，苣ノ木地区では弥生時代の断面V字形の溝状遺構が検出されたが，環濠の下部のみが残存した可能性をもっている。

・調査研究事業環濠等状況調査（特定調査）

平成11年度の特定調査は，台地北西の低地の芦辺町不條・八反地区において1,572㎡を発掘し，旧河道3条，濠4条，溝3条，土壙7基，土器溜1，掘立柱建物跡1棟，水田に関係する足跡等の遺構を確認した。濠は弥生中期に掘られ，再度弥生後期に掘り直されたことが確認され，いずれも旧河道の手前で止まることが分かった。今回発見された一番外側にある濠端の延長上に掘立柱建物跡が検出され櫓のような機能が推定されている。旧河道のうち北側と西側にある河道（1号・3号旧河道）は弥生中期から古墳初頭の時期で，古墳前期に埋め立てられ，水路と思われる溝を設け，3号旧河道では水田に伴う足跡が確認された。土器溜は弥生中期から後期頃の土器を主体として，線刻土器，卜骨，楽浪系車馬具，貨泉4枚（うち1枚は2号旧河道に流入）が出土した。台地西側直下にある2号旧河道では，弥生後期から古墳前期にかけての土層から多くの鉄製品が出土したが，なかでも板状鉄斧，日本最古の鉄鎚の出土は鍛冶工房が存在していた可能性を示す遺物として注目される。

・農道・県道調査

保存整備・活用事業に伴うものではないが，平成10年度に引き続き，台地西側の低地（芦辺町八反地区）に南北に長さ205m，幅約5.3mの調査区を設定して発掘を行った。石製礎盤をもつ掘立柱建物跡，弥生後期の濠，土壙，溝と弥生後期の水田跡などが確認された。

この他に，普及活動として，原の辻遺跡調査事務所が主体となって，「赤米」の田植えから収穫までの作業を行っている。収穫祭では，竪穴住居の復元や火起こし，もちつきなどを行い好評を博した。

（宮　崎）

三　県内の研究活動について

県内の主な研究会には，「長崎県考古学会」と「西海考古同人会」がある。

長崎県考古学会は，県内の研究者や愛好家を中心に，春の総会と秋の大会を行っている。春は，主に前年調査された主要遺跡の発表を行い，秋は県内各地に会場を移し，地域に目線をすえたテーマを取り扱っている。学会では，長崎文化の特徴を海洋県と位置付け，「海を介した交流」をテーマに，人類学・文献史も交えながら幅広い研究活動を続けている。特に離島を多く抱え持つ長崎県において，大会を離島で行うことは，会員の足の確保や多額の移動費用を伴うので出席率の低下は否めないが，考古学の研究・普及活動と言う点に関しては，地元の協力もあり，一定の成果を上げている。特に離島では，陸の世界では理解できない，海上交通による地域の成り立ちがあって，その土地に立って始めて遺跡の様々な現象面の理解が成り立つ。特に，これからは，中世・近世を中心とした海外との交流史を，遺物の上から考古学的に解明することが重要な課題である。このような長崎県の考古学の諸問題を問題提起するために，九州国立博物館誘致推進本部との共催で，シンポジウム「海・島・海人－海洋県長崎の源流をさぐる－」が開催されたことは，大きな成果であったと思う。

また，西海考古同人会は若手を中心に月例研究会活動を行い，『西海ニュース』は毎月発刊している。その成果として，『西海考古』が創刊された。

・長崎県考古学会総会　1999. 5. 22　於：長崎大学

塚原　博「小値賀町野崎島野首遺跡の概要」　　尾上博一「大瀬戸清水遺跡」

秀島貞康「風観岳支石墓群調査の中間報告」　　馬場聖美「里田原遺跡」

福田一志「水崎遺跡出土の輸入陶磁器とその歴史的背景」　　扇浦正義「現川焼窯跡の発掘調査」

・シンポジウム『風土記の西海・五島列島文化』 1999. 10. 24　於：小値賀町離島開発総合センター

基調講演：上村俊雄 「南九州と五島列島に関する追加発言の一部」

・長崎県考古学会大会　1999. 11. 28　於：長崎ブリックホール

シンポジウム「海・島・海人－海洋県長崎の源流をさぐる－」

基調発表：渡辺　誠「対馬海流域の文化交流」　　分部哲秋「渡来系弥生人と縄文系弥生人」

佐伯弘次「中世の長崎県と東アジア・南蛮」　　高野晋司「長崎県の考古学的成果」

特別講演：沈　奉謹 「韓国南岸地域において確認された日本系遺物と遺跡」

シンポジウム：（コーディネーター）西谷　正　　（パネラー）渡辺，分部，佐伯，高野，沈

四　調査の動向

1999年度の発掘届は115件，県内の埋蔵文化財専門職員は63（含嘱託11）名で，まだ専門職員を配置していない自治体が半数以上を占める。遺跡内における開発行為はしっかりと確認されているだろうか。自治体によって，保護体制に温度差がある事は，ある程度やむを得ないかもしれないが，その事で歴史の空白地帯が生まれてはいないか気がかりである。全国的に注目されている原の辻遺跡の様な例があるが，それで長崎県地域の歴史を代表できるわけではない。特に，離島を多くかかえ，海洋文化的色彩が強い長崎県は，様々な文化要素で成り立っている地域であることが強く認識され始めている。長崎県考古学会では，「海」と「交流」に視点を置いた研究活動を続けているが，これは長崎県が置かれた地理的環境から発せられることである。近年，中世，近世の遺跡の調査が進み，特に長崎市では南蛮貿易港として開港されて以来の町の調査が行われ，海外の遺物が多数出土している。長崎ならではの考古学として注目したい。また離島や海岸部で遺跡調査が増え，それぞれの地域や遺跡が少なからず個性を持ち，文化的に複雑な要素を持った地域であることが分かりつつある。

魅力的な遺跡が発見される一方で，その成果がどの様に普及還元されているのだろうか。遺跡の調査は，報告書で完結するのではなく，それを地域の住民を中心に，広く一般に教育普及することが歴史学としての考古学の使命ではないだろうか。一般普及書の作成，現地見学会，展覧会の開催などは十分とはいえず，博物館活動との連動もほとんどなされていない現状がある。発掘業務に追われ終始するうちに，考古学研究者が，いつの間にか歴史家から技術者になっていないだろうか。自戒も込めて，長崎県における考古学の現状を報告したい。

【旧石器時代】

北松浦郡江迎町根引池（ねびきいけ）遺跡で，集石遺構１基を含む４つのユニット（旧石器時代の生活単位）が検出された。柳葉形のナイフ形石器を中心とし，エンド・スクレーパー，彫器を含む石器群で，尖頭器・台形石器・細石器を含まないことから，ＡＴ降灰期に近い前後の時期に位置付けられている。注目すべきは石核と剥片の接合資料10例，剥片間の接合資料15例を数え，西北九州の旧石器時代の中では珍しく接合資料の多さや，ユニットを中心とした遺物の広がりが認められ，貴重な発見となった。

全国的にも有数の洞穴（どうけつ）密集地域として知られる佐世保市では，「洞穴・古代等遺跡分布調査会」（会長　麻生　優）による菰田（こもだ）洞穴の発掘調査が行われ，ナイフ形石器の包含層が確認されたことが特筆される。時期はナイフ形石器終末期，細石器文化の直前に位置付けられている。旧石器時代の遺物を出土した洞穴遺跡は，全国的に見ても福井洞穴（長崎県吉井町）と佐世保市の泉福寺（せんぷくじ）洞穴（佐世保市）に次ぐものであるが，福井洞穴は時代決定の決め手になる遺物が無く，泉福寺洞穴は地層が不明確という欠点があった。菰田洞穴では，縄文早期の押形文土器の第３層の下に，ナイフ形石器を含む石器と剥片146点を出土した15～30cmの遺物包含層である４層が確認された。

佐世保市では，麻生 優 氏を中心にして，1964年の岩下洞穴から本格的な洞穴調査を行い，泉福

寺洞穴などの調査によって日本の土器の始源期の解明がなされてきた。菰田洞穴で後期旧石器時代の文化層が発見された事は，ナイフ形石器から細石器，そして土器の出現過程を，洞穴という限定された空間で編年的に眺めることができる事例として，これまでの一連の調査研究の成果ととらえて良いだろう。

また島原半島・国見町の石原遺跡では，２次堆積資料であるが，局部磨製石斧・ヘラ形石器が発見された。当該時期の資料が少ない西北九州地域の様相究明に重要な資料になると見られており，今後の調査が期待される。

【縄文時代】

大瀬戸町雪浦・雪浦清水遺跡は河川改修工事によるもので，縄文時代早期の轟式，曽畑式，船元式，春日式，坂の下式，北久根山式，宮下式，西平式，太郎追式から縄文晩期にかけての遺物が出土した。石器は石鏃，石錐，削器，磨製石斧，石錘，敲石が出土するなど混在している。調査地点は，遺跡の主体部から離れた標高の低い台地縁辺で，廃棄の場所であった可能性が強く，自然営力の作用を受け易い場所である。特徴的な遺物としては，第３層から「貝殻腹縁圧痕文土器」が出土しており，口縁部付着の炭化物の加速器質量分析法による年代測定で，^{14}C年代は4,340±60ｙ．Ｂ．Ｐで，器形・文様構成・器面調整の特徴などから縄文中期後半の春日式併行型式として位置づけられている。

諫早市と大村市にまたがる標高約200ｍの丘陵に造られた風観岳支石墓群の範囲確認調査が，平成９年から継続的に行われ，晩期・突帯文期の支石墓群が発見された。昭和45年，九州縦貫自動車道建設に伴って県教育委員会が実施した「大村湾沿岸東岸地区分布調査」で，最重要遺跡として風観岳支石墓群が発見され，その後，昭和50年に発掘調査が行われている。

平成９年度から，諫早・大村の両市で，①支石墓群の分布範囲の確認，②支石墓群の群構成と群の構造の解明，③築造時期の確定，④下部構造の解明を主眼として調査が行われており，平成11年度の調査で，これまでＡ地点とされてきた南側から３基が確認された。Ａ地点は，３つ以上のグループに分けられ，いずれも下部構造が石棺と土壙が混在している。築造時期は，晩期支石墓の古段階（導入期）と考えられている。

【弥生時代】

平成９年９月に国史跡として答申を受けた壱岐・原の辻遺跡の調査は，県教育委員会，並びに関係町教育委員会によって調査が進められている。平成11年度は，これまでに発見されていた弥生時代の船着場が現河川（幡鉾川）から離れた水田の中から発見されたことから，船着場の周りの旧河川及び環濠等の状況の確認のための調査が行われ，不條・八反地区で中期から古墳時代前期の旧河道，中期の環濠３条，後期の濠１条等が確認され，中期から後期の土器溜，「新」時代の貨泉４枚，楽浪系の青銅製馬車具，板状鉄斧が出土した。また，遺跡の範囲確認調査では，芦辺町の不條地区で，前年度からの延長である中期の環濠を確認し，鉄のみや銅鏃が出土している。

芦辺町教育委員会による保存整備のための調査では，台地中央部の最高所から一段下がった北東側の調査区で１間×１間の掘立柱建物跡２棟，竪穴住居跡２棟，柱穴群，焼土塊が，その西側の最高所北側の調査区では，竪穴住居跡10棟と柱穴群，最高所西側では，掘立柱建物跡，竪穴住居跡５棟が確認され，一支国の王都・原の辻遺跡の全容解明に向けた調査が進められている。

また，原の辻遺跡から海上約50キロ離れた大島村の長畑馬場遺跡が注目される。大島村は周囲約38キロの島で，平戸島の北に位置し，古代から海上交通の要所として海洋文化の色彩が強い島である。長畑馬場遺跡は，海岸近くの標高35～45ｍの低位溶岩台地上にあり，中頃から古墳時代初頭にかけての遺跡で，大島村の圃場整備事業等に伴い調査を進めた結果，住居跡のほか，甕棺墓33基，箱式石棺墓１基，石蓋土壙墓１基が確認されている。一般的に，西北九州における弥生時代の墓制の中心をなすのは箱式石棺墓で，甕棺墓は共存するものの，その数は少なく，甕棺墓が主体となって墓地を構成する事はほとんどない。ただ，大型の成人甕棺墓はなく，壺棺が半数を越え，甕も日常容器の転用が多く，甕棺の埋置角度にもバラツキが多いことは，北部九州地域からの直射的影響は少なかったものと思われる。副葬品には関東地方に多く，九州では出土例の少ない鉄釧も出土している。

元来，玄界灘に面した北部九州地域と対馬，壱岐は，大陸交渉の窓口で，この周辺は「トランジットの海」である。その為，様々な地域の文化的影響を受ける地域である。長畑馬場遺跡の墓制を見る限り，縄文時代からの文化的伝統を色濃く残す西北九州地域の中にあって，海上交流によって玄界灘に面した北部九州文化の影響を強く受けていた事を物語っている。

【古墳時代】

壱岐島内には，264基の古墳が確認され，長崎県内の古墳の半数以上を占めている。郷ノ浦町の大米古墳は６世紀末～７世紀初の，線刻画を持つ横穴式古墳で，自然崩壊の危機に瀕したため記録保存を目的とした調査が行われた。線刻画には，屋形船３隻，小型船１隻，イルカと思われる大型の海獣１頭，小型の魚群，大型の鳥が配されている。交易拠点としての壱岐島の性格を良く現している。

また，壱岐勝本町の遺跡整備事業として進められてきた双六古墳の調査が終了した。双六古墳は６世紀後半の，全長93ｍを誇る長崎県最大の前方後円墳である。後円部に築かれた大型の横穴式石室の内部には，金銅製の単鳳環頭大刀柄頭・圭頭大刀柄頭・有窓鍔，馬具として金銅製飾金具，ほか玉類・二彩・新羅土器など豪華な副葬品が残されていた。これらはみな，大和政権や新羅との深い関係を示すものであり，被葬者が大和政権の対新羅外交に重要な役割を果たした人物であったことを思わせる。

【古　代】

対馬・美津島町にある国指定史跡の朝鮮式山城「金田城」では，二の城戸城門跡が確認された。「金田城」は『日本書紀』に建造の記載があり，標高276.2ｍの高みにあって，城戸と呼ばれる城壁及び城門が３か所ある。二の城戸は一の城戸とビングシ門の中間，標高24ｍに位置する。調査は，平成

5年以来続けられている史跡整備に伴うもので，城門は奥行き4.0m，間口3.2m，入り口幅1.4～1.6mの，1間×2間の掘立柱建物で，6本の柱で支えられていたものと考えられる。

【中近世】

南高来郡南有馬町では国史跡原城（はらじょう）跡の保存整備事業が進められている。11年度調査により，原城本丸跡の玄関にあたる枡形門（ますがたもん）を検出した。門は幅5mの石塁が11mのび，門の開口部の幅は7mある。ここに巨大な「虎口（こぐち）（城の主要入口）」空間の存在が明らかとなった。その規模は近世初頭の城郭の調査で，同種の遺構の検出例としては全国的にみても最大級である。

ほか，同じく遺跡整備事業として，南高来郡北有馬町では国史跡日野江城（ひのえじょう）跡，対馬の厳原町では金石城（かねいしじょう）跡の復元整備事業を継続している。

長崎市の勝山町遺跡は，戦国時代末期に領主大村純忠が開港した長崎の最初の町である内町を取り囲むように形成された外町の一つ勝山町にあり，17世紀初頭にはサン・ドミンゴ教会が建築され，破却された後には朱印船貿易家末次平蔵の屋敷となり，さらに町年寄高木家の所領となった場所で，近世長崎の歴史を知る上で重要な土地である。これまでの勝山小学校が，学校の統廃合により桜町小学校としての建て替えに先立ち，確認調査が行われた。その結果，16世紀末から19世紀にかけての陶磁器を中心に，金属製品，獣骨，ガラス製品等の遺物が発見され，土壙や石列のほか，焼けた瓦片を多量に含む焼土層が検出された。17世紀後半頃の遺物が多いことから，寛文3年（1663）に起きた長崎大火に伴う土層の可能性が強い。今後の本調査により，16世紀末以降の，教会跡，屋敷跡と生活面の検出が期待される。

大村藩の本城であった玖島（くしま）城（別名大村城）では，国道拡幅に伴う発掘調査が行われた。玖島城は慶長四年（1598），日本最初のキリシタン大名として知られる大村純忠の子，喜前（よしあき）が築いたとされる三方を海に囲まれた海城である。幸い，明治維新を迎えるまで戦火に遭うことはなかった。海に突き出したように築城した海城は，慶長期に築かれた城の特徴の一つで，敵の大軍から防衛しやすいという特徴を持っている。調査地点は城の入り口に当たる場所で，築城時の江戸初期から後期にかけての複数の建物跡が検出された。特に注目されるのは，朝鮮式布目瓦の出土である。朝鮮式布目瓦は，玖島城築城以前の三城（さんじょう）城（1564年築城）にも見られる。三城城は喜前の父大村純忠の居城で，横瀬浦・長崎を開港して南蛮貿易を行っていた。その配下には小佐々水軍があって，海外との貿易活動を活発に行っていたと思われる。江戸初期の玖島城に付帯する建物にも朝鮮式布目（ぬのめ）瓦が葺かれている事は，それが三城城にあったものを持ってきたのか，文禄・慶長の役以後においても経済交流活動があったものか，慎重に検討すべき課題の一つと言えよう。

また，オランダ陶器壺片が出土したことも注目される。これはオランダ産のアルバレロとよばれる壺で，オランダ人が薬壺として使用していた。わが国では，茶器として珍重されていたとみられ，完形品は二代将軍徳川秀忠の墓に埋葬されていたものが広く知られている。今回，確認された壺片は，出土層からみて，江戸時代のごく初期のものと考えられ，これまでの出土例からすれば，最も古い時

期に位置づけられる。当時は，オランダのリーフデ号が慶長五年（1600）に豊後に漂着して間もない頃であり，平戸や出島の和欄商館も設置されていなかった。これらのことからこの壺は，わが国とオランダとの関係が，まさに始まったばかりの頃の交流を示す資料として，極めて意義が深い。

〔文　献〕

遺跡に関する文献は，発掘調査報告書が主である。調査された遺跡は，報告書が刊行されており，この点については問題がない。しかしながら，研究誌に関しては，極めて少ないのがこれまでの現状であった。こうした中で，西海考古同人会が，『西海考古』１・２号を刊行したことは特筆される。内容は研究発表，資料紹介，会員動向からなっている。これまでにも，断続的に研究誌が刊行されたことはあったが，継続性に欠け，埋蔵文化財研究者の間の，報告書のやり取りに終わっている感がある。研究の進展と成果の普及のために，こうした研究誌の発刊が望まれてきたが，遅ればせながらも，県内の研究活動を知る文献として，今後，その活動と合わせて注目されるところである。

（大村市教育委員会　文化課　稲富裕和）

＜研究誌＞
『西海考古』１・２号　西海考古同人会

＜報告書・年報＞
山口浩司編「長崎県埋蔵文化財調査年報７（平成10年度分）」長崎県文化財調査報告書　第155集
長崎県教育委員会
福田一志編「県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ」長崎県文化財調査報告書　第156集
長崎県教育委員会
川口洋平編「稗田原遺跡Ⅳ」長崎県文化財調査報告書　第157集　長崎県教育委員会
田中淳也・古門雅高編「金田城跡」美津島町文化財調査報告書　第９集
美津島町教育委員会
福田一志編「根引池遺跡」江迎町文化財調査報告書　第２集　江迎町教育委員会
本田秀樹編「長畑馬場遺跡」大島村文化財調査報告書　第13集　大島村教育委員会
荒木伸也編「雪浦清水遺跡」大瀬戸町文化財調査報告書　第２集　大瀬戸町教育委員会
白石純悟編「大米古墳」郷ノ浦町文化財調査報告書　第２集　郷ノ浦町教育委員会

＜論文など＞
福田一志「近世長崎の概要」考古学ジャーナル455号
川口洋平「考古学からみた寛文三年（1663）の大火」考古学ジャーナル455号

宮下雅史「唐人屋敷跡」考古学ジャーナル455号
高田美由紀・寺田朋緒「出島和蘭商館跡」考古学ジャーナル455号
扇浦正義「長崎出土の近世陶磁」考古学ジャーナル455号
川道寛・辻田直人「長崎県国見町の中期旧石器時代と後期旧石器時代の初頭の石器群－松尾遺跡・石原遺跡をとりあげて－」旧石器考古学59号
中野雄二「肥前長崎県の製品について－波佐見」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
松下久子「肥前長崎県の製品について－平戸・三川内」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
扇浦正義「肥前長崎県の製品について－現川」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
岩谷史記「長崎県における狸谷型ナイフ形石器の分布について」『西海考古』1
渡邊康行「長崎県における縄文早期研究の現状と課題－押型文土器出土遺跡を中心として－」『西海考古』1
渡邊康行「一野式・弘法原式の設定をめぐって」『西海考古』1
福田一志「西北九州における縄文後期遺跡の特性－土器分布・石器を中心として」『西海考古』1
古門雅高「黄金山古墳出土土師器の検討」『西海考古』1
川口洋平「長崎県における周防・豊前系雑器の流入について」『西海考古』1
古門雅高「五島・富江町宮下貝塚出土の縄文後期中葉の土器について」『西海考古』2
尾上博一「島原市景華園遺跡出土の中細形銅矛」『西海考古』2
宮崎貴夫「長崎県出土の渡来銭・模鋳銭について」『西海考古』2
川道　寛「長崎県五島列島発見の「神子柴」型石器」『西海考古』2
川口洋平「長崎県における古代遺跡の調査－現状と課題」『古代交通研究』9
塚原　博「肥前国西部（小値賀）の食器」『中近世土器の基礎的研究』14　日本中世土器研究会
高野晋司「九州出土先史時代植物遺存体集成－長崎県」『環東中国沿岸地域の先史文化』
正林護・塚原博「九州出土の先史時代韓国系新石器時代土器」『環東中国沿岸地域の先史文化』

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月
第１集	長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第２集	五島遺跡調査報告	1964,
第３集	民族資料調査報告書	
第４集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第５集	深堀遺跡	
第６集	男女群島特別調査報告	1968, 3
第７集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968, 3
第８集	対馬－豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第９集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970, 9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972, 3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972, 3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974, 3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974, 3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975, 3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976, 3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第１集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976, 3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977, 1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977, 3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977, 3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977, 3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977, 3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978, 3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979, 3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979, 3
第40集の２	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979, 3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979, 3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979, 3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979, 3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979, 3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980, 3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980, 3
第48集	キリシタン関係資料	1980, 3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980, 3
第52集ａ	ケイマンゴー遺跡	1980, 9
第52集ｂ	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981, 3
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981, 3

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月
第54集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981,
第55集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981, 3
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982, 3
第59集	島原・南高の文化財	1982, 3
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982, 3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982, 3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983, 3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983, 3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983, 3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983, 3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984, 3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1984, 3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985, 3
第71集	名切遺跡	1985, 3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第78集	百花台遺跡	1985, 3
第79集	長崎県の近世寺社建築近世寺社建築緊急調査報告書	1986, 3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986, 3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986, 3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	1986, 3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986, 3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987, 3
第87集	長崎県遺跡地図	1987, 3
第88集	長崎県の民謡	1987, 3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988, 3
第90集	中道壇遺跡	1988, 3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988, 3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988, 3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989, 3
第95集	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査－	1990, 3
第96集	長崎県の諸職調査	1990, 3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990, 3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査－	1991, 3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991, 3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991, 3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991, 3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992, 3
第105集	上大垣遺跡	1992, 3
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992, 3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992, 3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993, 3

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧③

No.	報　告　書　名	発行年月
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993, 3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994, 3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994, 3
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994, 3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994, 3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994, 3
第115集	中木場遺跡－水無川第3遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994, 3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994, 3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995, 3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995, 3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995, 3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995, 3
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995, 3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995, 3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995, 3
第124集	原の辻遺跡	1995, 3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996, 3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996, 3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告－	1996, 3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川4号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996, 3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川1号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996, 3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996, 3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997, 3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997, 3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997, 3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997, 3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997, 3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997, 3
第137集	広平遺跡	1997, 3
第138集	桟原城跡	1997, 3
第139集	石田城跡	1997, 3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998, 3
第141集	大浜遺跡	1998, 3
第142集	蒲河遺跡	1998, 3
第143集	沖城跡	1998, 3
第144集	桜町遺跡	1998, 3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998, 3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998, 3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998, 3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報5	1998, 3
第149集	馬乗石遺跡	1998, 3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報6	1999, 3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999, 3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999, 3
第153集	長崎県のカクレキリシタン－長崎県カクレキリシタン習俗調査事業報告書－	1999, 3
第154集	長崎街道－長崎県歴史の道（長崎街道）調査事業報告書－	2000, 3
第155集	長崎県埋蔵文化財調査年報7	2000, 3
第156集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅲ	2000, 3
第157集	稗田原遺跡Ⅳ	2000, 3
第158集	長崎県埋蔵文化財調査年報8	2001, 3
第159集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅳ	2001, 3
第160集	平野遺跡	2001, 3
第161集	稗田原遺跡Ⅴ	2001, 3
第162集	栄町遺跡	2001, 3
第163集	石田城跡Ⅱ	2001, 3

六　平成６年度から平成11年度にかけての事業別発掘調査届出件数の推移

		平成６年	平成７年	平成８年	平成９年	平成10年	平成11年
緊急調査	道路	32	20	14	12	12	15
	河川	4	4	1	1	1	2
	学校	2	2	2	2	4	4
	住宅・宅地造成	29	35	31	15	10	28
	工場	0	0	2	0	0	1
	店舗等	0	0	0	0	2	0
	その他建物	17	11	9	9	3	5
	土地区画整理	5	2	3	2	3	0
	公園造成	5	0	3	2	1	2
	ゴルフ場	0	0	0	0	0	0
	観光開発	1	1	0	0	0	1
	ガス等	8	0	1	1	1	0
	農業関連	28	22	29	30	23	34
	土砂採取	0	1	0	0	0	0
	その他開発	12	23	7	21	14	14
	自然崩壊	0	0	0	0	1	0
	遺跡地図作成等	0	0	0	0	0	2
	保存目的	0	0	0	0	0	0
	確認試掘	11	0	4	0	0	0
	遺跡整備	4	12	2	3	2	1
学術研究		10	0	0	0	2	6
合計		168	133	108	98	79	115

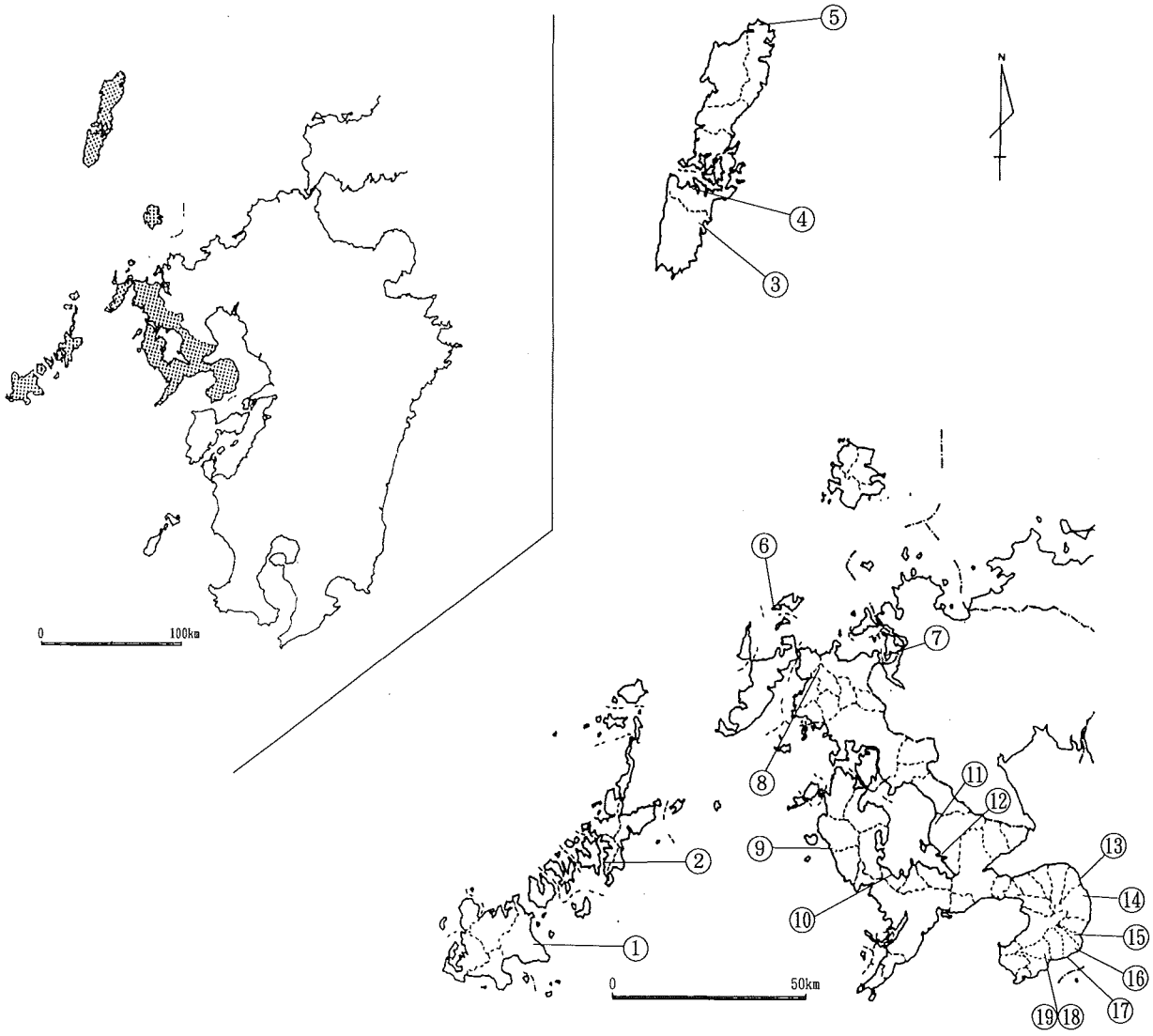
平成６年度から平成11年度にかけての県市町村別職員数の推移

	平成６年度		平成７年度		平成８年度		平成９年度		平成10年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	18(2)	24(2)	16(3)	32(5)	16(3)	34(5)	17(3)	34(10)	17(3)	33(11)

	平成11年度	
区分	県	市町村
職員数	16(5)	36(6)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成11年度長崎県内発掘調査箇所

①石田城跡　（福江市）
②桐古里遺跡　（若松町）
③金石城跡　（厳原町）
④金田城跡　（美津島町）
⑤豊館跡　（上対馬町）
⑥長畑馬場遺跡　（大島村）
⑦平野遺跡　（福島町）
⑧根引池遺跡　（江迎町）
⑨雪浦清水遺跡（大瀬戸町）
⑩釜の島遺跡　（時津町）
⑪黒丸遺跡　（大村市）
⑫玖島城跡　（大村市）
⑬一野遺跡　（有明町）
⑭森岳城跡　（島原市）
⑮大崎鼻遺跡　（布津町）
⑯東田原遺跡　（有家町）
⑰蒲河遺跡　（有家町）
⑱日野江城跡（北有馬町）
⑲日野江城跡（北有馬町）

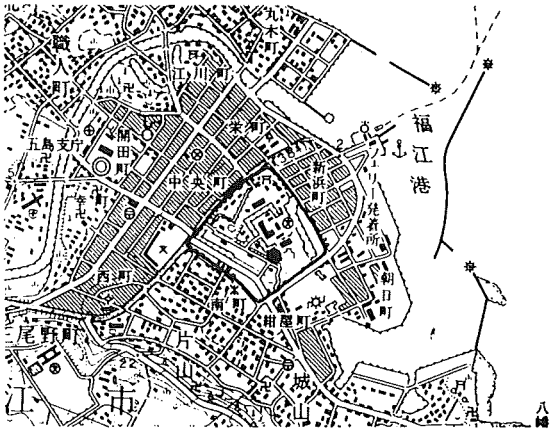
①石田城跡（いしだじょうあと）

所 在 地	福江市池田町1－1	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県立五島高校体育館改築	調査面積	26㎡
調査期間	平成11年6月21日～6月29日（7日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	平成12年度刊行	処　　置	調査後工事

立　地

石田城（福江城）は，五島福江島に幕末時に構築された五島氏の居城である。

位置は，福江港から南西へ約400ｍの標高5～10ｍにある。



石田城跡位置図〔五島福江〕（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査は，本丸の南西方向の石垣に面した，当時石蔵があったと推定される場所の調査を行った。

調査区内の西側から順にTP番号をつけて2×2ｍの調査坑を6ヶ所設定し試掘調査を行った。

遺構については，2ヶ所から検出され，建物の基礎工事によって掘削されてはいたものの，東側から西側へ向かってまっすぐに石列が検出された。

遺物については，各調査坑ともに陶磁器の破片や瓦・古銭など約2000点ほど検出した。

まとめ

2ヶ所の石列から石蔵と思われる遺構を確認した。ほぼ絵図面で石蔵と推定される部分であるが，コンクリート壁や基礎工事等によって壊されているため，石蔵跡の全体像を確認することが出来なかった。

遺物は日常使われていたのではないかと思われる近世陶磁器が大部分を占めていた。

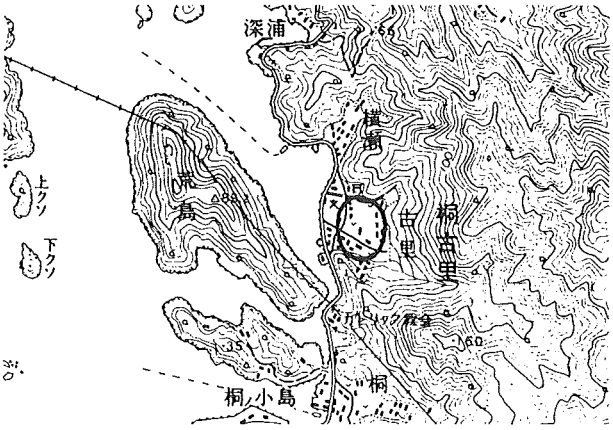
以上のことについて記録措置を行った。

［調査担当：町田・斉藤］（文責：斉藤）

遺構検出状況

②桐古里遺跡（きりふるさと）

所在地	南松浦郡若松町桐古里	調査主体	長崎県教育庁文化課
調査原因	主要遺跡内容確認調査	調査面積	20m²
調査期間	平成11年6月21日～7月2日（10日間）	調査区分	確認調査
報告書	平成12年度刊行予定	処置	現状保存



桐古里位置図〔奈良尾〕（S＝1/25,000）

立　地

遺跡は入野川が形成した標高4～10mの狭小な沖積地に形成されている。東側は山稜で，平地との傾斜変換点から海岸部に向かって西へなだらかに傾斜していく。

調　査

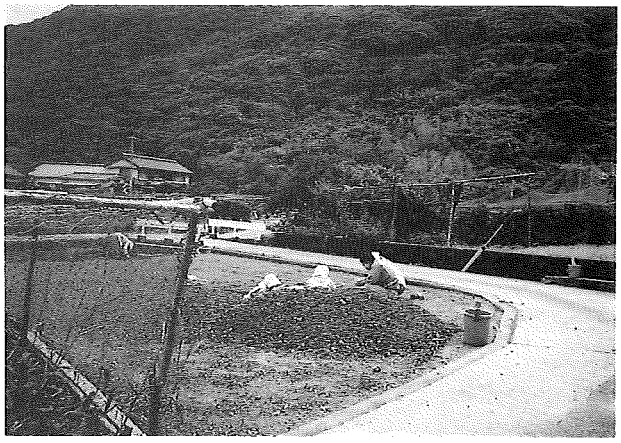
調査は10箇所の試掘坑を選定しておこなった。基本土層は第1層（表土，耕作土）をはずすと，すぐに遺構面である。遺物は表土中に含まれる。原位置を保つ遺物は第1層と第2層（黄褐色混礫土層）の間より出土する。第2層は3～5cm角の風化礫を含み，それらの礫は黄色，褐色を呈する。検出した遺構は第2試掘坑から土坑およびピットのみである。出土遺物は弥生前期中頃から中期にかけての弥生土器が中心である。

まとめ

桐古里遺跡はこれまで本格的な調査がなされておらず，内容が不明なところが多かったが，今回の調査により，以下のことが判明した。(1) 遺跡の主な時代は弥生時代前期中葉から弥生時代中期である。(2) 遺跡は入野川左岸にあり，右岸には広がらない。(3) 遺跡の主体は山口進氏宅を中心として桐古保育園一帯までの地域である。(4) 保育園浦に貝塚らしき場所がある。地元の方からの聞き取りにより，かつては塚状の地形であったという。(5) 保育園前から西へ5mほど海岸に向かうと，地形が落ちており，旧海岸線とみられる。現在の桐古小学校は埋立であるため，旧地形の海岸線は，桐古小学校裏から桐保育園の西側にかけてと判断される。

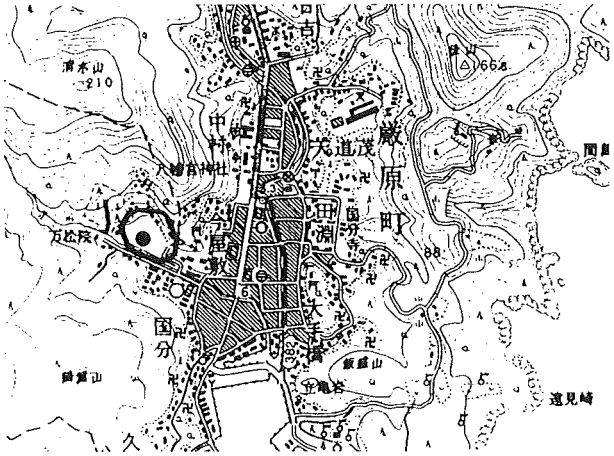
(6) 今後は墓域の検出が課題である。

［調査担当：古門・尾上］（文責：古門）


遺跡遠景

③金石城跡（かねいしじょうあと）

所 在 地	下県郡厳原町大字今屋敷地内	調査主体	厳原町教育委員会
調査原因	復元整備	調査面積	450㎡
調査期間	平成11年９月27日～12月３日（49日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	刊行予定	処　　置	現状保存



金石城跡位置図〔厳原〕（S＝1/25,000）

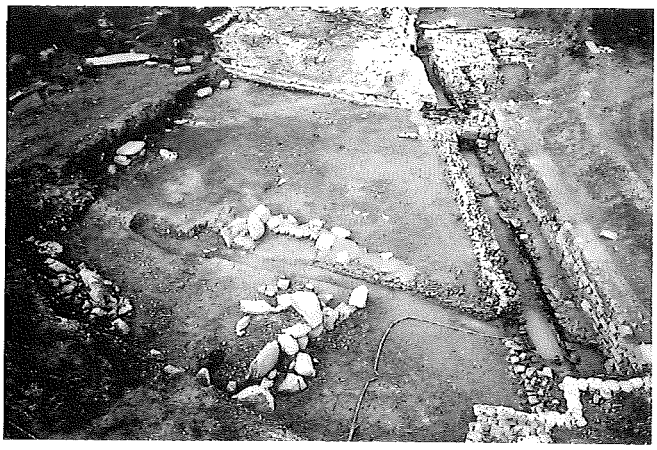
立　地

金石城（かねいしじょう）は標高10～13ｍの，清水山と鶴翼山に挟まれた谷部に位置する。城は，宗家14代将盛が享禄元年（1528）に金石屋形をつくり，延宝６年（1679）まで国守の館として150年間存続している。過去に昭和51年・56年・平成４年・９年・10年に調査を行っている。

調　査

今年度の調査は，平成10年度調査で確認した「泉水池」南側の構造を詳細に把握することを目的とした。その結果，池の南側端部のくびれ部分を確認できた。このラインは近年作り替えた護岸とほぼ構造を同じくするが，作り替えの工事により上部は攪乱，削平されていた。

また，平成９年度Ｎ区東西トレンチの南方で，池の先端部における池底の立ち上がりも検出した。他の部分と同じく赤土を張っているが，玉砂利はくい込まず，わずかに浮いた状態であった。平成９年度に行われた調査で確認されたN26の水路は，昨年のJK24に連続したものと判明した。水路は９年度のトレンチ調査で観察されたとおり，K24で暗渠（あんきょ）構造となり，さらに南方に伸びていく。暗渠以北は大小の礫で隠され，当時は露出していなかったと思われる。暗渠の南側出口は南方に面して鏡石などで石垣を構築しており，見せることを想定しているような作りである。また，暗渠内部には約50cmの幅で空間が確保されていた。中には前後の水路内とは異なり，礫群ではなく水性堆積によると思われる粘土が堆積していた。


調査区全景

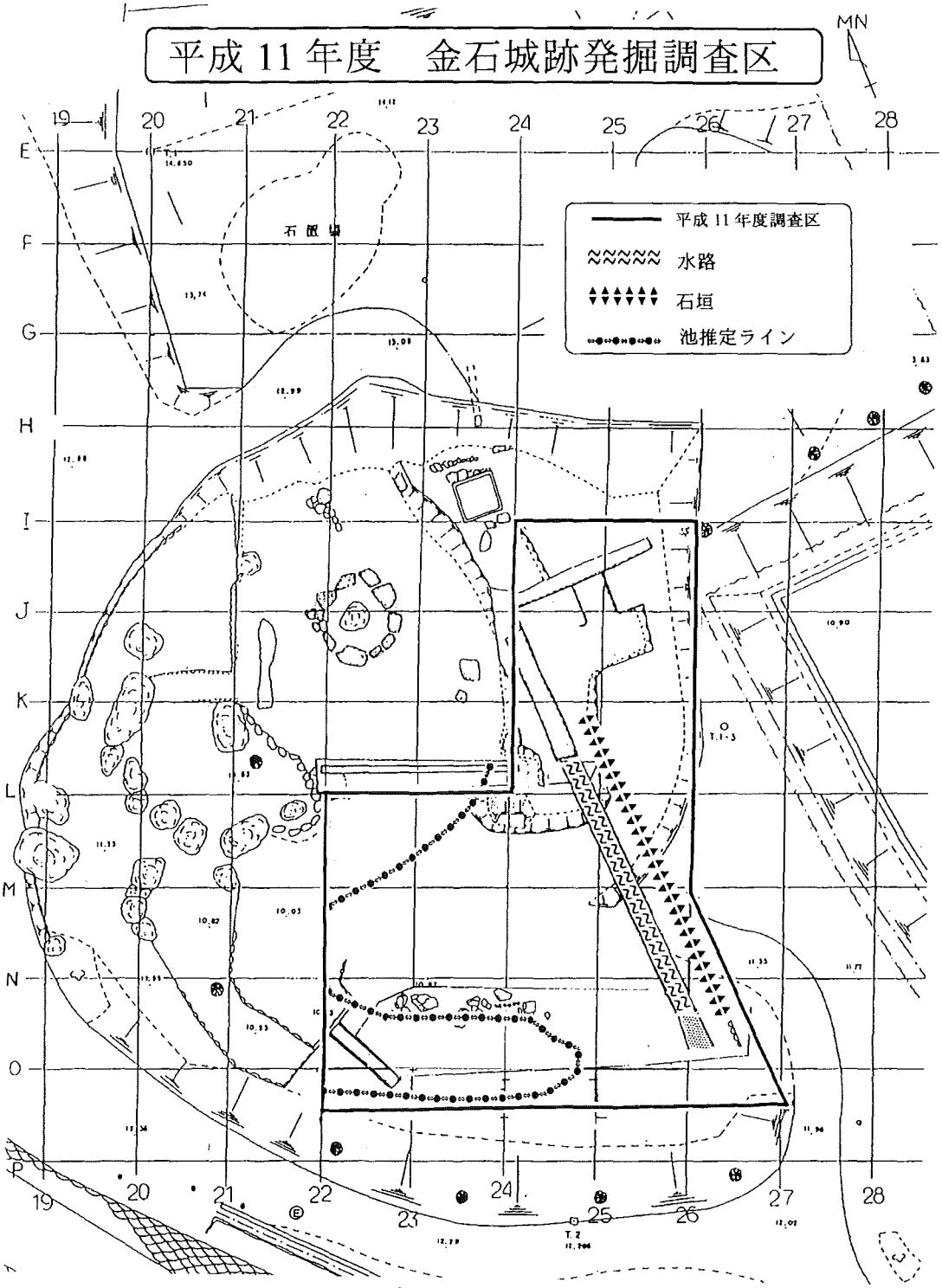
N26東端の石垣は水路に沿って南北に伸びる。天場上には固く締まったバラスが敷き詰められており，厳原中学校当時に一部露出していたとの話に首肯できる。暗渠部分の石垣との切り合い関係や組み方から，これは水路とは独立したものではなく，水路を含む

池の構成要素の一部であるとみられる。I・J22の中島では，巨石を重機で除去し，下に玉砂利面を検出した。

まとめ

今回の調査で池東半のおおよその形状を把握した。また文化年間の絵図面に対応する水路を確認し，水路暗渠部の構造が判明した。I・J22の中島では，巨石を除去し，玉砂利を敷いた面を検出した。

［調査指導：高瀬　　調査担当：尾上・小磯（厳原町教育委員会）］（文責：山口）



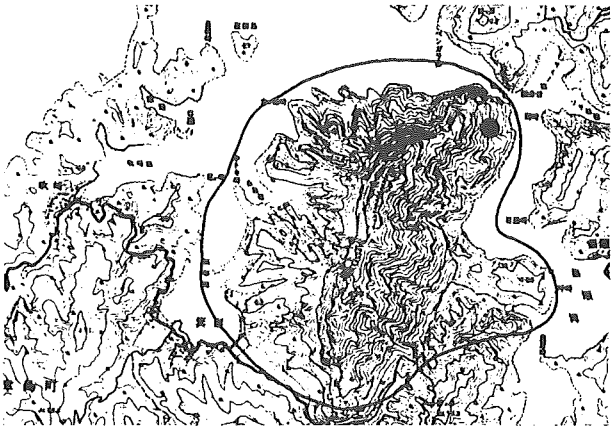
調査区と遺跡配置図

④金田城跡（かねだじょうあと）

所 在 地	下県郡美津島町黒瀬および箕形	調査主体	美津島町教育委員会
調査原因	遺跡整備	調査面積	150㎡
調査期間	平成11年９月20日～10月29日（27日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	平成12年３月刊行済み	処　　置	現状保存

立　地

金田城は浅茅（あそう）湾に突きだした小半島である通称城山（標高276m）に立地する。三方を海で囲まれた天然の要害である。この城山を取り囲むように石塁がまわる。石塁の総延長は2.86kmである。国史跡金田城の整備に伴う発掘調査は平成5年にはじまり，今年で７年目を迎えた。今年度の発掘調査は，二ノ城戸（にのきど）の城門を中心におこなった。



金田城位置図〔阿連〕（S＝1/50,000）

調　査

二ノ城戸付近は，標高24ｍに位置する。そもそも二ノ城戸付近には二つの柱穴をもつ門礎石と，谷部に流出した礎石（１穴）が存在することから，かつてここに城門が存在したことが推定されていた。

しかしながら，二ノ城戸の状況は，大小の崩落石が城戸の全面を覆うという状況であった。崩落した石塊を人力で除去するという作業は大いに難航したが，城門をほぼ当時の姿で露出させることに成功した。

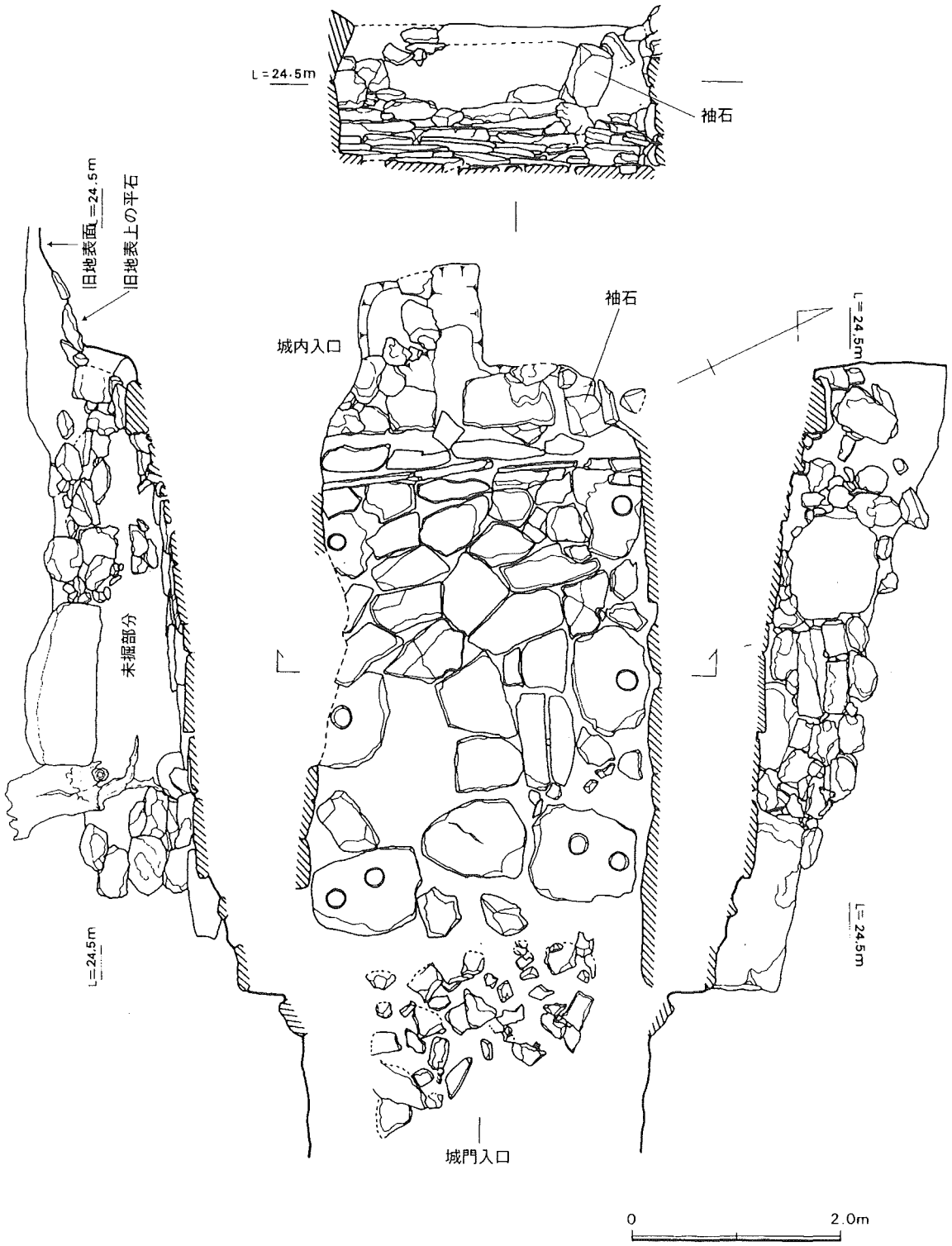
城門は城門入口と城内入口がそれぞれ4段の階段を使用し，門内の床は敷石を用いていたことがわかった。門内の両方の壁は目地をそろえた割石積みである。礎石は６個みつかり，６本柱の１間×２間の門跡である。櫓門（やぐらもん）風の門であったことが想像される。

門の規模は奥行き4.0ｍ，城門入口部の幅は3.2ｍを測る。城内進入部は袖石（そでいし）によって狭められているが，幅は1.8ｍほどと推定される。

［調査担当：田中（美津島町教育委員会）・古門］

（文責：古門）

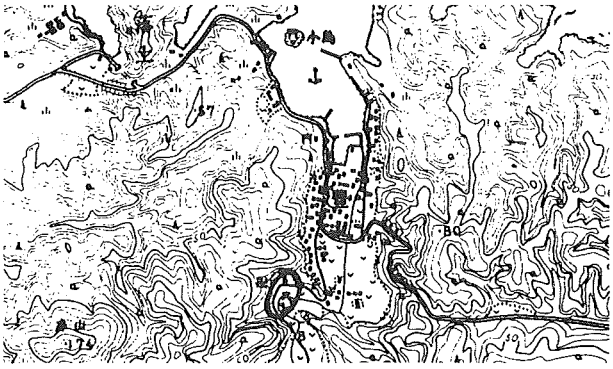
金田城跡二ノ城戸城門跡



金田城跡二ノ城戸城門跡（S＝1/60）

⑤豊館跡（とよやかたあと）

所 在 地	上県郡上対馬町豊	調査主体	上対馬町教育委員会
調査原因	町道拡幅	調査面積	16㎡
調査期間	平成11年11月8日～11月12日（5日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後工事



豊館跡位置図〔泉〕（S＝1/25,000）

立地および環境

調査地は周囲を山に囲まれ，豊川を前面にみる標高10mほどの傾斜変換点に立地する。現在は畑地である。慶竜院（けいりゅういん）および洲河（すがわ）家の敷地は道路部分より高いところにあり，道路との比高は40cmほどである。豊館跡は宗家14代島主将盛が天文8年（1539）に家臣のクーデターによって厳原を追われ，仁位（にい）に留まったのち，本人の希望により豊崎郡主の住まいする豊（とよ）の地に館をかまえたことによる。浜御殿といわれる。浜御殿は現在の慶竜院の地にあったといわれるが，詳細は不明である。

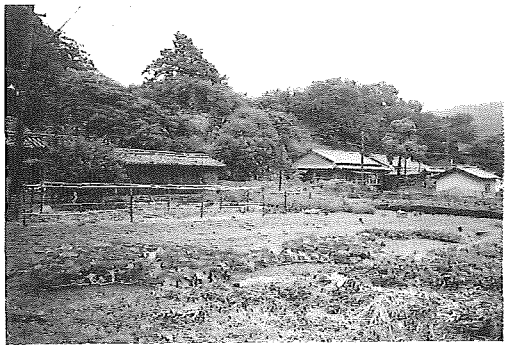
調　査

道路拡幅部分に3箇所の試掘坑を設定し，路線外ではあったが慶竜院横にもう1箇所の試掘坑を設定した。慶竜院横の畑は地元では「寺畑（てらはた）」とよばれている。「寺」とは慶竜院のことと思われる。調査区の基本層序は以下のとおりである。第1層は表土，第2層は砂岩・泥岩の風化土層。赤や黄色の礫が混ざり，上層では江戸後期の陶磁器片を含む。第3層は黄褐色粘質土層で，礫を含まない均質な粘土層で，無遺物層である。第4層は砂岩・泥岩からなる地山である。

第1試掘坑は洲河氏所有の畑地に設定した。土層は基本層序のとおりである。第3層下位より石鍋片が出土した。遺構は検出できなかった。第2試掘坑は洲河氏宅前の畑地に設定した。土層は基本層序のとおりである。近世後期の遺物は出土するが，中世の遺物は出土しない。遺構は検出できなかった。第3試掘坑は第2試掘坑と同様である。第4試掘坑は第3層が存在しない。第2層が厚い。第2層下位から麗末李初の象嵌青磁片および，緑釉（りょくゆ）陶器片ならびに中世須恵器片が出土した。

まとめ

第1試掘坑や第2，第4試掘坑で出土した石鍋片や陶磁器などからみて，付近に中世の遺構および包含層が存在することは間違いがないところである。これは文献にのこる浜御殿に関連したものと思われる。旧地形や文献などからみて現在の慶竜院および洲河家の敷地内とみてよいであろう。　　［調査担当：古門］（文責：古門）

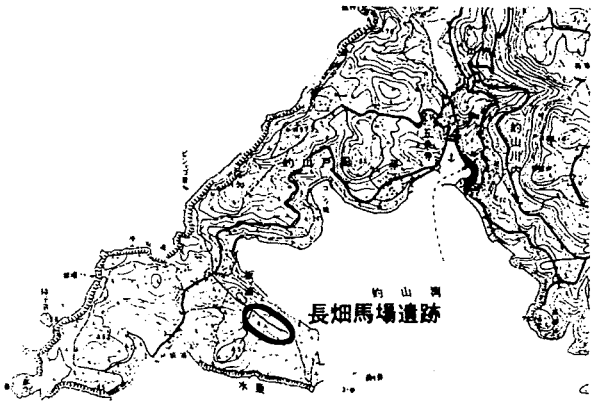

遺跡遠景

⑥長畑馬場遺跡（ながはたばば）

所 在 地	北松浦郡大島村戸田免字長畑	**調査主体**	大島村教育委員会
調査原因	中山間地域総合整備事業（圃場整備）	**調査面積**	5,600㎡
調査期間	平成11年6月28日～10月1日（50日間）	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成12年3月刊行済み	**処　　置**	調査後工事

立 地

長畑馬場遺跡は，的山大島の南西部に突き出た半島の中央部に立地する。遺跡の周辺は南方に緩やかに下がる低位溶岩台地である。海岸線は南側が断崖，東側が礫浜海岸となっている。海岸からの距離は約200m，標高は35～45mを測る。



長畑馬場遺跡位置図〔的山大島〕（S＝1/50,000）

調 査

今年度は，昨年度未調査の地域と，新たに周辺の畑を試掘した結果新たに広がった地域について，調査を実施した。調査方法は昨年度同様，表土剥ぎをおこなったあと国土座標に従って10m四方のグリッドで区画した。ピット等の遺構の把握や遺物取り上げはグリッドごとにおこなった。

主な遺構は甕棺墓23基，箱式石棺墓1基，竪穴住居跡1基，不明遺構1基，土壙4基，土器溜り1基，大型の柱穴3基，石組のあるピット等を検出した。甕棺墓はほとんどが小児棺で，上部が削平された状態であった。内部に人骨が確認されたものもあったが，遺存状態が悪く，副葬品を伴うものもなかった。甕棺の時期は弥生中期から後期に比定される。竪穴住居跡は，一辺が5.4～6.4mの長方形を呈す大型のものである。内部に周溝が複数巡らされていることから，随時拡張されたものであろう。

遺物は，弥生土器，磨石（すりいし），凹石（くぼみいし），石皿，石鏃，石斧，黒曜石，骨片などパンコンテナ35箱分が出土した。弥生土器はどの遺構でもまんべんなく出土し，弥生中後期のものが主体となる。また，丹塗の土器片があり，葬送に伴う祭祀がおこなわれていたことを示唆している。磨石や凹石の類も遺構内から多く出土した。特筆すべき遺物としては，ピット内から出土した銅鏃がある。鋒と茎をわずかに欠く柳葉形有茎鏃で，現存長4cmを計る。1点だけの出土であるが，本県でまとまった量の銅鏃が出土している壱岐・原の辻遺跡と，海を隔てての関わりを思わせる資料である。

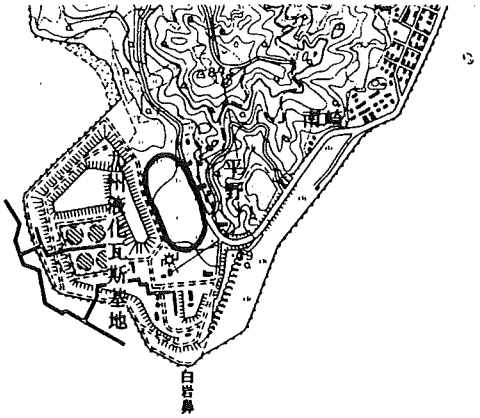
まとめ

今回の調査の結果，この地域が弥生時代中期から後期にかけての墓域であることがわかった。遺構は圃場整備のため消滅するが，遺物については大島村のふるさと資料館において展示している。

［調査：本田・大浦・尾上］（文責：大浦）

⑦平野（ひらの）遺跡

所 在 地	北松浦郡福島町塩浜免平野	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	液化石油国家備蓄福島基地建設事業	**調査面積**	4,700㎡
調査期間	平成11年4月12日～12月27日（146日間）	**調査区分**	本調査
報 告 書	刊行予定	**処　　置**	調査後工事



平野遺跡位置図〔今福〕（1/25,000）

立　地

福島町は佐賀県と長崎県との県境に位置し，伊万里湾に浮かぶ東西5.92km，南北7.32km，面積17.22km²の島にある。島全域に溶岩台地やその下層の第三紀堆積岩層が露出し，また急勾配であるため，地滑り地帯となっている。島内には，矢柄遺跡や土谷遺跡のような旧石器・縄文時代の遺物が採集できる遺跡が点在し，隣接する松浦市や東松浦半島内と地質・地形が似通っていることから，この地方全体の遺跡・遺物の構成には類似点が多い。中世の福島は，松浦党の祖とされる源久の孫峯源三郎の領有地として初めて古文書に登場し，その後は松浦・鷹島と同様，松浦党の基地としての機能や元寇による被害などの歴史をもつ。遺跡は，島の南西端の半島に位置し，標高10～20ｍ程の丘陵上に立地する。昭和59年の分布調査で旧石器・縄文時代の遺跡と周知され，平成８年の範囲確認調査の結果，遺跡の存在が確認された。

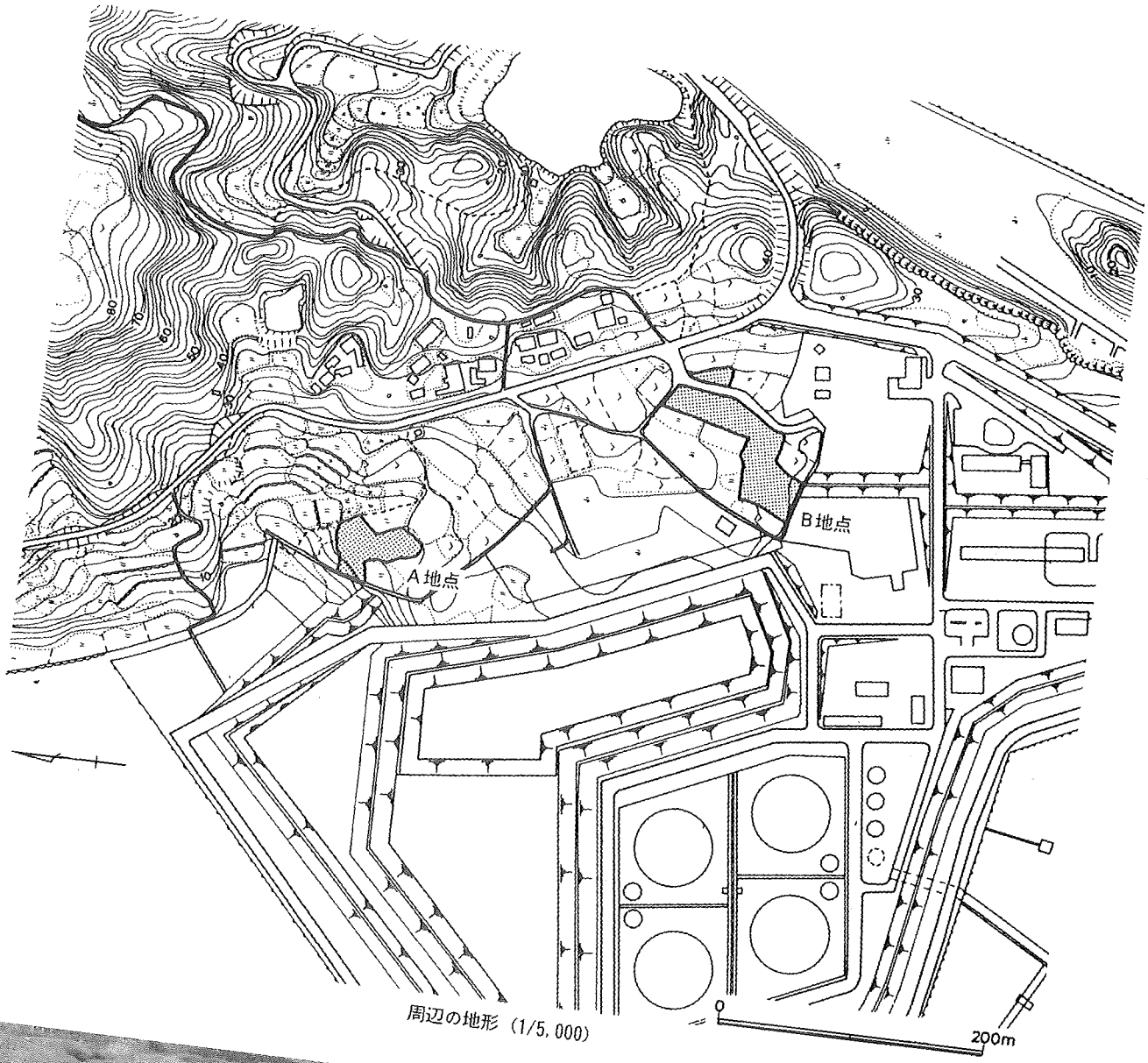
調　査

調査地点が２カ所あるため，北部をＡ地点，南部をＢ地点とした。両地点に５ｍ四方のグリッドを土地の傾斜に平行に設定し，包含層中の遺物はドットマップを作成して遺構との関係を考慮しつつ調査を行った。結果，Ｂ地点南部で遺物包含層を２層確認し，旧石器時代のナイフ形石器から縄文時代早期の局部磨製石鏃，晩期の刻目突帯文（きざみめとったいもん）土器などを出土した。旧石器・縄文時代の遺物が混在していたため時代別に分層できるはっきりとした包含層は確認できなかったが，２層のうちの下層に刻目突帯文土器等を包含したピット群が存在したため，上層は晩期中心の遺物包含層と考えられる。また，ピット群は調査地点外を中心として，南側に拡大する傾向を示していた。

まとめ

遺跡の中心はＢ地点の南側にあり，晩期を中心とする遺構群であった。ピットには，覆土に黒曜石製石鏃・剥片や刻目突帯文土器の破片が一括して埋納されたものもあり，晩期における祭祀や石器加工を考えるうえで極めて重要な意味を持つ。

〔調査担当：副島・福田・本田・高原・尾上・田中〕（文責：高原）



周辺の地形（1/5,000）

ピット群出土状況（西側から）

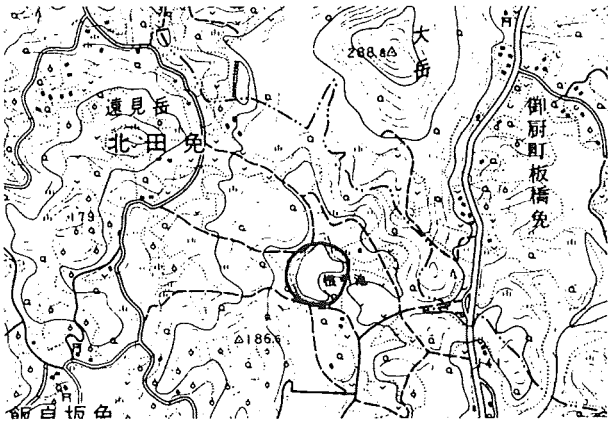
ピット内遺物出土状況

⑧根引池遺跡

所 在 地	北松浦郡江迎町根引免字根引	調査主体	江迎町教育委員会
調査原因	広域農道	調査面積	380㎡
調査期間	平成11年6月8日～7月14日（29日間）	調査区分	本調査
報 告 書	平成12年刊行済み	処　　置	調査後工事

立　地

江迎町は北松浦郡のほぼ中央部に位置し，北に一部海岸部を控えるがほとんどが急峻な山々に囲まれた地域である。根引池の周辺も急峻な山を背後に控え，その山麓から流れ出る小河川が流れ込んで湿地を造り，これを堰き止めて池としている。池は，北側に台地が突出しハート形を呈している。遺跡はこの台地の南側に位置し，東西に長い台地上にある。台地は堤の南端を西から東に傾斜し，標高140ｍを測る地域一帯である。



根引池遺跡位置図〔江迎〕（1/25,000）

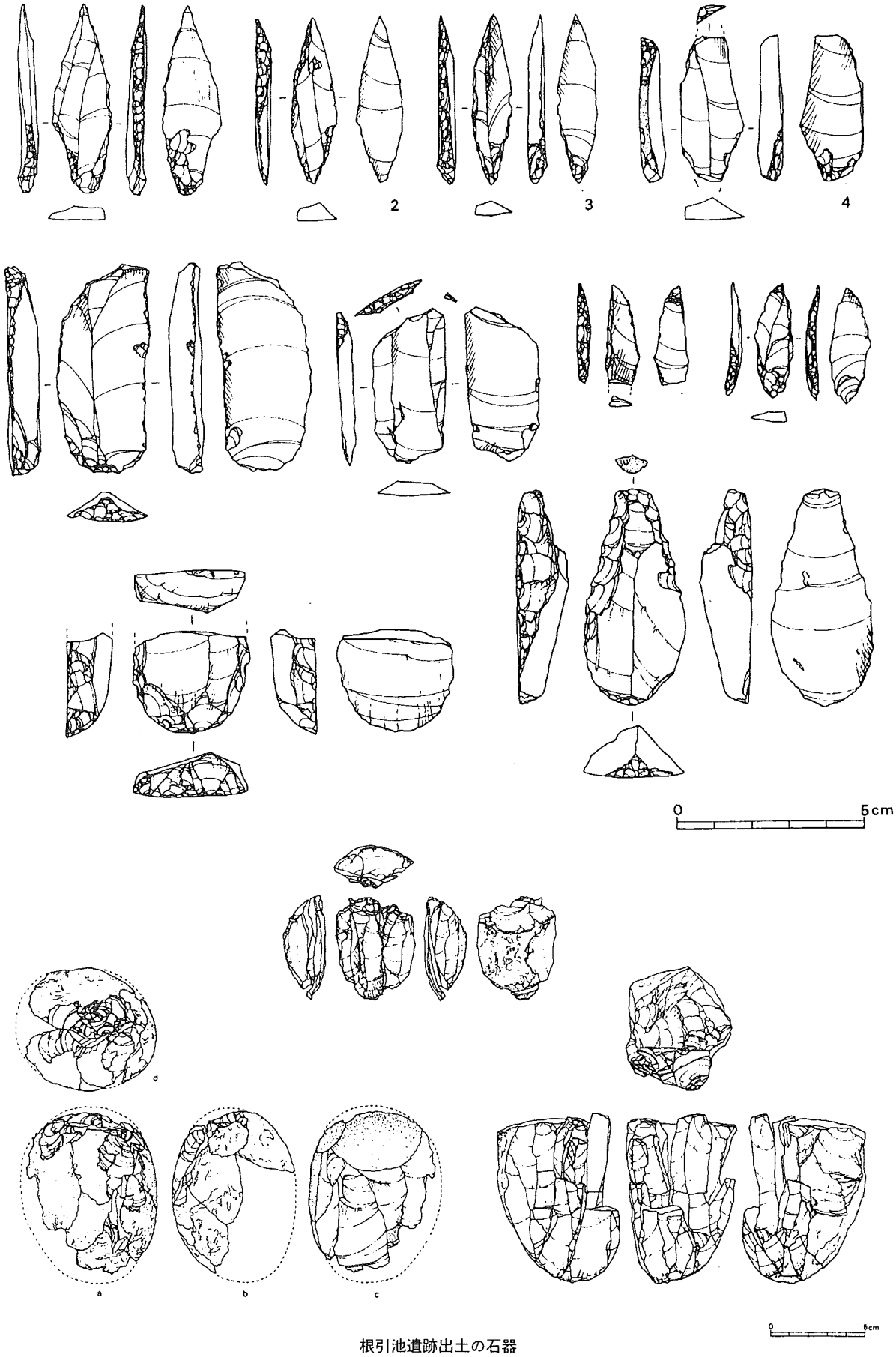
調査成果

調査の結果，多くの旧石器時代の遺物が出土した。遺物の組成は，ナイフ形石器・エンドスクレイパー・彫器を主体とするもので，西北九州特有の台形石器や尖頭器の出土が見られないことからＡＴ下位の石器群として捉えられる。遺構としては，集石遺構が１基検出され，この石器群がＡＴ下位のものとするならば，九州でも古い時期の遺構ということができよう。遺物は幾つかのブロックとしてもまとめられる。今回４つのブロックを提示したが，この中でも第１ブロックと第４ブロックは半径２ｍ内に集中するもので，多くの接合資料も得ている。全体の接合資料は石核と剥片の接合10例，剥片間の接合が15例にのぼり，この時期の剥片剥離技術を考える上でも重要な成果があった。剥片剥離の主体は，縦長剥片剥離で基本的に磯道型剥片剥離技術を踏襲しているが，調整の在り方にバリエーションがあることが知られる。

今後の課題

遺物はその接合資料の多さや，ブロックの在り方などから比較的安定した石器群であることが理解できる。先に述べたようにこの石器群がＡＴ下位の石器群であるという根拠を固めるためにも今後，石器群の剥片剥離技術，組成などを他の石器群と比較しながらさらに検討する余地が残されている。

［調査担当：福田，中村］（文責：福田）



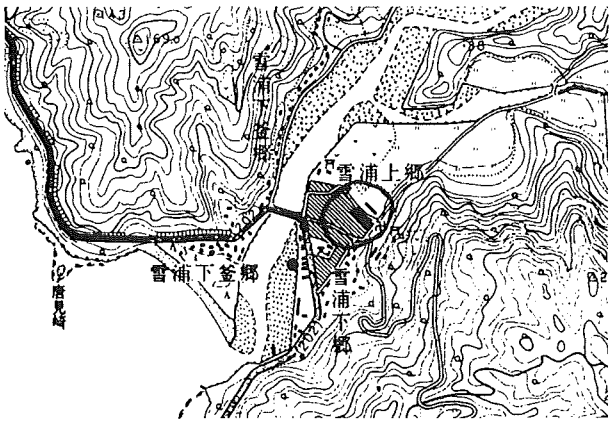
根引池遺跡出土の石器

⑨雪浦清水遺跡（ゆきのうらしみず）

所 在 地	西彼杵郡大瀬戸町雪浦上郷	**調査主体**	大瀬戸町教育委員会
調査原因	河川改修工事	**調査面積**	約1,500㎡
調査期間	平成12年４月12日～９月３日（70日間）	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成12年３月刊行	**処　　置**	調査後工事

立　地

町南部を流れ，五島灘に注ぐ雪浦川河口付近に遺跡はある。河口左岸には川に直交するように突き出た微高地があり，その上に雪浦平坦地区が形成され，遺跡も微高地上とその周辺に立地する。



雪浦清水遺跡位置図〔板浦・面高〕（S＝1/25,000）

調　査

雪浦川に流れ込む清水川の河川改修工事に伴う調査である。調査範囲は幅約10ｍ，長さ約150ｍで，上流部と下流部に分け調査をおこなった。上流部では混在した状況で縄文時代前期から弥生時代中期の土器や石器，動植物遺存体などが，下流部では18世紀代の肥前産と思われる陶磁器，18世紀末頃と考えられる石垣が検出された。

まとめ

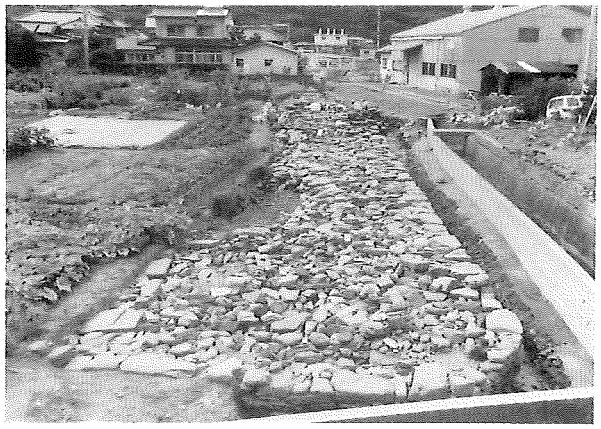
上流部から遺構は検出されず，縄文土器を中心に遺物が出土した。型式別に列記すると轟式，曽畑式，船元式，春日式，坂の下式，北久根山式，宮下式，西平式，太郎迫式土器などが，石器は石鏃，石錐（きり），削器（さっき），磨製石斧，石錘，敲（たたき）石が出土した。混在的状況を呈していることについては，調査地点が遺跡の主体部から離れた標高の低い台地縁辺であり，本来は廃棄の場であった可能性が高いこと，また水流などの自然営力の作用を受けやすかったという地理的条件に起因すると考えられる。上流部の成果としては第３層から出土した貝殻腹縁圧痕文（かいがらふくえんあっこんもん）土器である。

復元口径25.3cm，残存高13.8cm，器壁は５～６mmと薄い。わずかに外反する口縁部から直立状の胴部へと続き，下半で軽く膨らんだ後，すぼまりながら底部に至る。底部は欠損しているが安定感のある底部になるようである。器面は表裏全体に横位～斜位の貝殻条痕を施した後，軽いナデ調整がおこなわれている。文様は外面の口縁部に限定され，二枚貝の腹縁を押し当てて横位一条の区画線を引いた後，縦位の連続的な貝殻腹縁圧痕文様を描いている。圧痕はきわめて直線的で，貝殻を倒し気味に傾けた状態で施文されているようである。

口縁部には多量の炭化物が付着しており，それらを加速器質量分析（ＡＭＳ）法による年代測定を依頼したところ，^{14}Ｃ年代は4,340±60ｙ．Ｂ．Ｐ（補正^{14}Ｃ年代4,310±60ｙ．Ｂ．Ｐ）との結果が得られた。

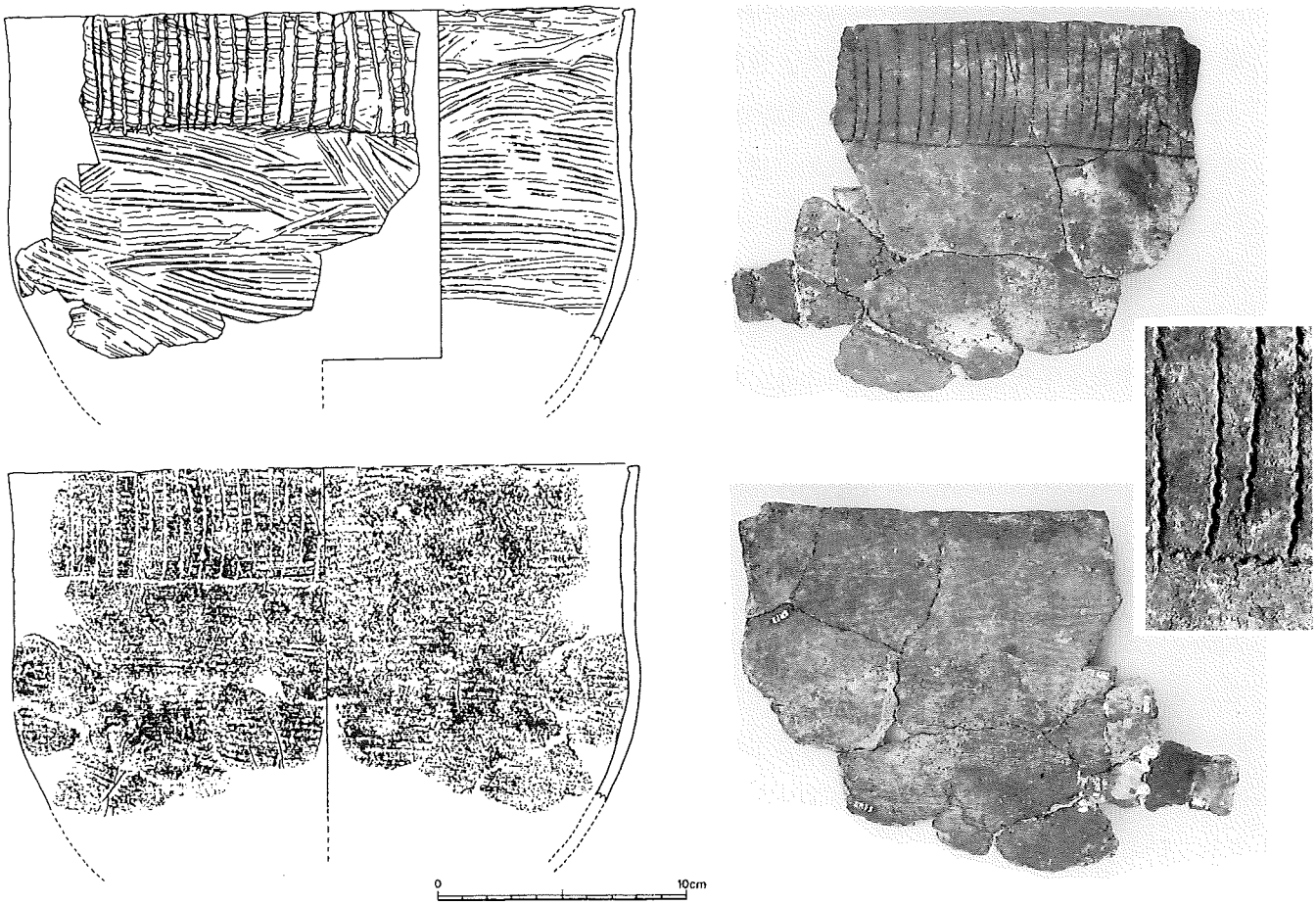
器形・文様構成・器面調整の特徴，年代測定の結果から縄文中期後半，春日式並行型式として位置づけた。現状では類例が確認されず，新たな調査例を待つこととした。

下流部で検出された石垣であるが，出土した陶磁器から18世紀以降に造られたものと考えられた。18世紀頃の雪浦を知る文献は『大村郷村記』しか確認できず，石垣構築などの記述は見られない。ただ大正時代に書かれたものではあるが，雪浦尋常高等小学校の『郷土誌』に石垣の構築を窺わせるような記述がある。寛政元（1789）年から7か年をかけて大村藩士森伊兵衛がおこなった河川の流路変更，埋め立ての大土木事業である。またこれ以後，雪浦の地形を大きく変えるような事業などはおこなわれていない。今回検出された石垣は一部分であり，かなり広範囲に広がっていると思われる。現時点で雪浦地区における大規模な土木事業は，寛政元年の記述しか確認できないため断定はできないが，出土した18世紀代の肥前産陶磁器，郷土誌の記述から土木事業の際に造られた石垣と考えられる。



下流部検出石垣（南東から）

［調査担当：荒木　　調査指導：高野・尾上］（文責：荒木）



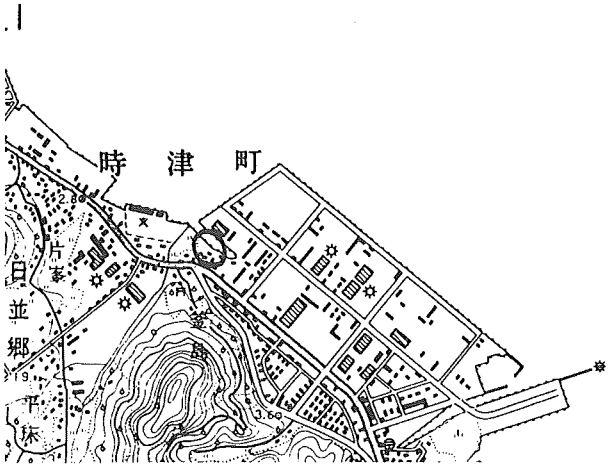
上流部第3層出土貝殻腹縁圧痕文土器（S＝1/3）

⑩釜ノ島遺跡（かまのしま）

所 在 地	西彼杵郡時津町日並郷	調査主体	長崎県教育庁文化課
調査原因	国道206号線改良工事	調査面積	20㎡
調査期間	平成11年7月22日～8月2日（8日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後工事

立　地

時津町は近年，めざましく開発が進み人口も増加している。海岸部はさかんに埋めたてられ，工場誘致がはかられている。遺跡は往時，釜ノ島とよばれた孤島とその周辺である。



釜ノ島遺跡位置図〔長浦〕（S＝1/25,000）

調　査

工区内に5箇所の試掘坑を設定した。第1試掘坑は国道206号線沿いの最高所に設置した。耕作土を除去すると赤褐色粘質土（第2層）がすぐに現れた。さらに15cm下は岩盤である。第2層は無遺物層で地山と判断された。包含層はすでに削平されており，遺構も存在しなかった。第2試掘坑は第2層までは第1試掘坑と同様であるが，岩盤までが深く，包含層や遺構はなかった。第3試掘坑は地蔵川沿岸で海岸に近い低地に設定した。旧地形は水田である。湧水のために調査を放棄した。第4層試掘坑は地蔵川にもっとも近いところに設定した。第2層下から円礫や亜角礫の集石があらわれた。礫の間には若干の遺物が含まれているが，原位置を保つものではなく，客土中からの出土と認識した。第5試掘坑は，時津北小学校の東隅で地蔵川にもっとも近いところに設定した。遺跡地図では時津北小学校遺跡の範囲内である。地表下1.5mで客土がみられる。客土下は灰色の混砂混礫層で，無遺物層である。

まとめ

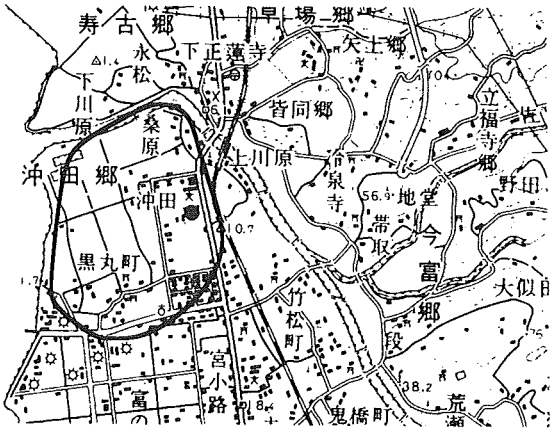
釜ノ島遺跡は範囲確認調査の結果，後世の削平にあい，包含層が失われていると判断された。丘陵下の海岸を新田として開発する際に，丘陵地より土砂を削り，埋め立てて開発したものと推定される。一方，時津北小学校遺跡は工事対象地が，遺跡の主体部（グラウンド側）よりはずれていると判断される。

釜ノ島遺跡遠景

［調査担当：古門・中村］（文責：古門）

⑪黒丸（くろまる）遺跡

所 在 地	大村市宮小路	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	久原養護学校校舎建築工事	調査面積	200㎡
調査期間	平成11年８月23日～９月15日（19日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	なし	処　　置	調査後工事



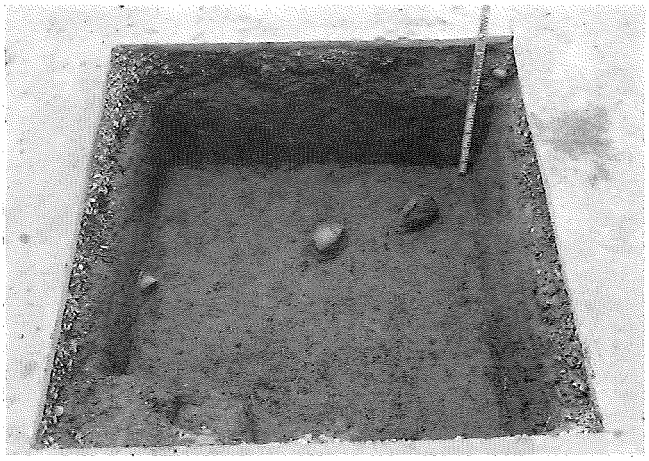
黒丸遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/50,000）

立地・調査

黒丸遺跡は，大村市の郡川河口付近から南側に位置する。今回は，宮小路三丁目に所在する建設大学校跡地において範囲確認調査を実施した。調査は，調査予定地に20ｍメッシュのグリッドを設定し，北東隅から西・南に，それぞれA～L，１～６の記号・番号をつけた。調査区は表土下約40cm～１ｍ強でコンクリート等の埋め土が堆積し，以下より，郡川の運搬・堆積作用によると思われる黄褐色砂層，黄褐色粘質土層，砂礫層を確認した。遺物は，黄褐色粘質土層，砂礫層の各層で検出したが，弥生時代中期から古墳時代にいたる土器・石器が混在して出土しており，土層も含めた状況からみてこれらは郡川によって上流より運ばれてきた二次堆積であると思われる。遺物の出土状況は良好ではなく，また遺構も確認されなかった。したがって今回の調査結果については，特に問題となるような埋蔵文化財の存在は認められず，工事には支障がないと判断した。

［調査担当：尾上・中村］（文責：中村）

調査区近景


試掘坑Ｇ′１区遺物出土状況（北側より）

⑫ 玖島城跡（くしまじょうあと）

所 在 地	大村市玖島一丁目ほか	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	道路改良	調査面積	1,800㎡
調査期間	平成11年7月1日～12年3月3日（112日間）	調査区分	本調査
報 告 書	平成13年度刊行予定	処　　置	調査終了後工事

調査経緯

玖島城は，日本最初のキリシタン大名である大村純忠の子，大村喜前（よしあき）が，慶長四年（1599）に築いたとされる平山城である。以後，幕末まで大村氏の居城として使用され，近世大村藩の本拠地であった。現在は大村公園となっている。今回の調査は，国道34号線の拡幅に伴い，平成9年度に実施した試掘調査の結果にもとづき実施したものである。また，南側の工事延長区域についても，調査に併行して試掘調査を行い，調査が急がれる区域については本調査を行った。

土　層

第1層はアスファルト・コンクリート，第2層は砂利層で第1層の基礎となっている。第3層は茶褐色土層で近代の埋土，第4層は灰褐色土層で客土・近代の撹乱層である。第5層は赤茶褐色土層で十八世紀代の遺物包含層，第6層は暗茶褐色土層で炭化物を含み，十七世紀初頭頃の遺物包含層である。第7層は黄褐色基盤層で，築城時に上面を整地したものと考えられる。

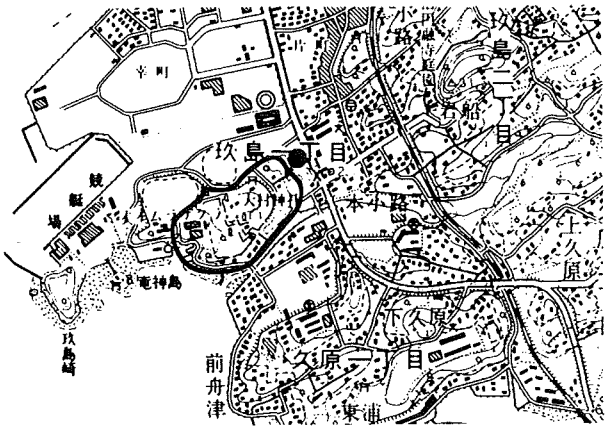
遺構・遺物

調査区北側において，建物跡が複数確認された。柱穴には平たい石や板が敷かれ，柱根が残っていた。遺物の年代から，これらは十七世紀初頭頃の遺構と推測される。また，調査区にかかる池については，近代の国道整備の際に石の積み直しを行っていたことが判明し，原形をとどめていないことが確認された。遺物は，近世の土器・陶磁器・瓦などパンコンテナ70箱分が出土した。注目されるものとしては，第6層から出土したオランダ陶器，華南三彩，李氏朝鮮産の瓦などがあげられる。

まとめ

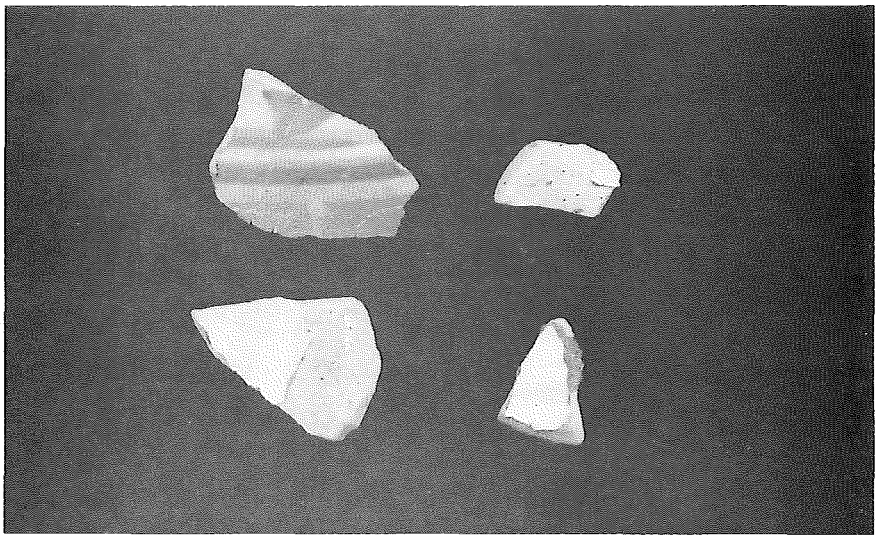
築城時の建物跡が確認されたこと，それに伴う豊富な遺物が出土したことが最大の成果である。今後，得られたデータを検討していくことで，近世初期の大村氏がどのような建物に居住していたのか，またどのような食器・茶器を使用していたのかが，考古学的に明らかになるであろう。引き続いて行われる平成12年度の調査にも期待がかかる。

［調査担当：川口・山口］（文責：川口）

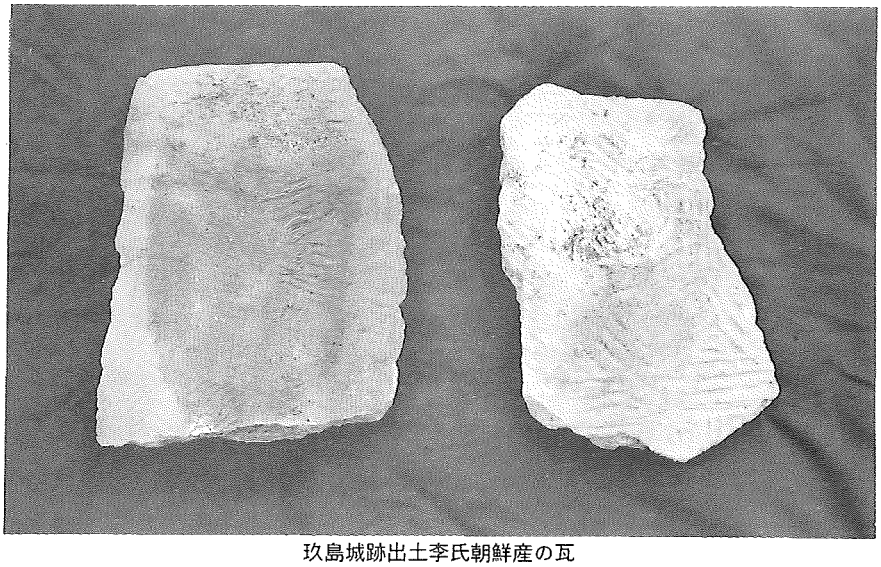


玖島城跡位置図（大村）（S＝1/25,000）

柱穴検出状況



玖島城跡出土オランダ陶器

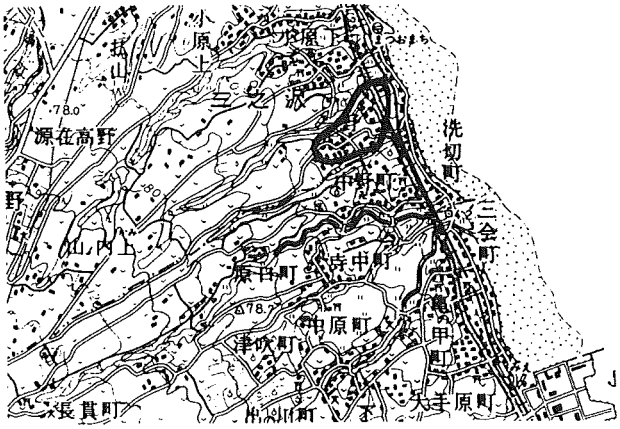


玖島城跡出土李氏朝鮮産の瓦

⑬一野（ひとの）遺跡

所 在 地	長崎県南高来郡有明町	調査主体	長崎県教育委員会
	三之沢名字野田，堂ノ前，下野，鼻ノ崎	調査面積	156㎡
調査原因	平成11年度主要遺跡内容確認調査	調査区分	確認調査
調査期間	平成11年11月15日～12月10日（18日間）	処　　置	調査後埋め戻し
報 告 書	平成12年度刊行予定		

立地・調査

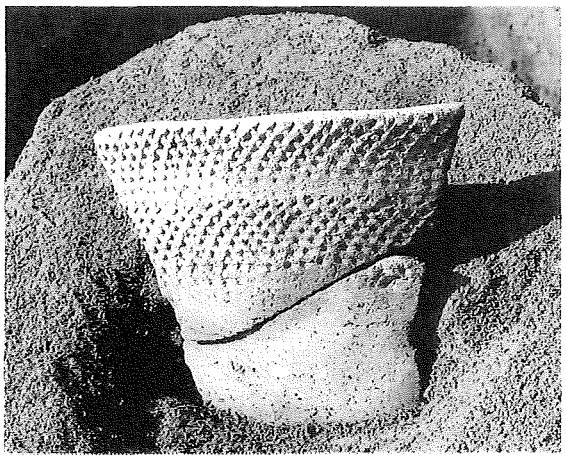


一野遺跡位置図〔島原〕（S＝1/50,000）

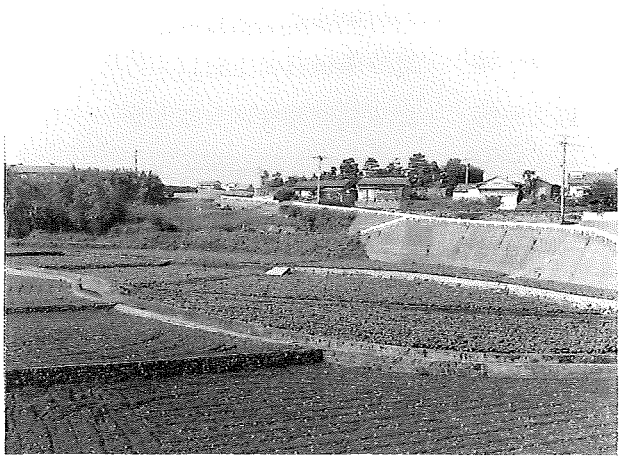
一野遺跡は，火山性扇状地の先端部にある低平な洪積段丘上に所在する。遺跡の標高は14～20ｍほどで，海岸に面した東側末端部は比高10ｍ程度の段丘崖となっている。調査は，2×2ｍの試掘坑（以下TPと略）を総計38ヶ所設定した。但しTP９は集石遺構を確認する為３×３ｍとした。基本層位は，１層：耕作土，２層：淡暗茶色土，３層：黒色土（弥生～中世の包含層），4a層：黄褐色土（縄文時代の包含層），５層：暗茶色土，６層：淡黄色土，７層：暗茶褐色土（カシノミ層），８層：赤褐色粘質土（大三東ローム層）であった。（４層は平成８年度実施の国庫補助事業に係わる範囲確認調査において確認されたもので，若干しまりのある黄色土層である。4a層はサラサラで乾燥するとパウダー状に近い状態になるのだが，層位と土色から４層の範疇に入るものとした）なお，各層でそれぞれ漸位層・撹乱部分があり，各層の範疇で細区分している。遺物は，TP29より縄文早期の円筒形貝殻条痕土器が出土した。この他の試掘坑からは，同じく縄文早期の押型文土器，縄文後・晩期の土器や弥生時代中期の土器・土師器・須恵器・中世陶器・輸入陶器等が出土した。遺構はTP９の4a層より縄文早期の集石遺構を確認した。集石は径約１ｍに渡り約10～30㎝大の礫で構成されており，内部に遺物等は確認されなかった。

国道251号線より西側の調査区については，TP３・８～12の付近は比較的包含層（4a層）の残りが良く，先述のように集石遺構も確認された。しかし試掘坑の大半はゴボウ栽培のトレンチャー痕が著しく，表面に遺物は散布しているものの包含層はかなり撹乱を受けていた。それ以外の試掘坑は埋め土であった。特にTP15・16の辺りは８層の大三東ローム層が地表面から３層目（埋め土の下）にあり，この辺りの旧地形はかなり削平されたものといえる。国道東側は，比較的包含層の残りが良く遺物も出土する事から，遺跡の中心とまではならなくとも，TP29より南側は遺跡の範囲内であるといえる。

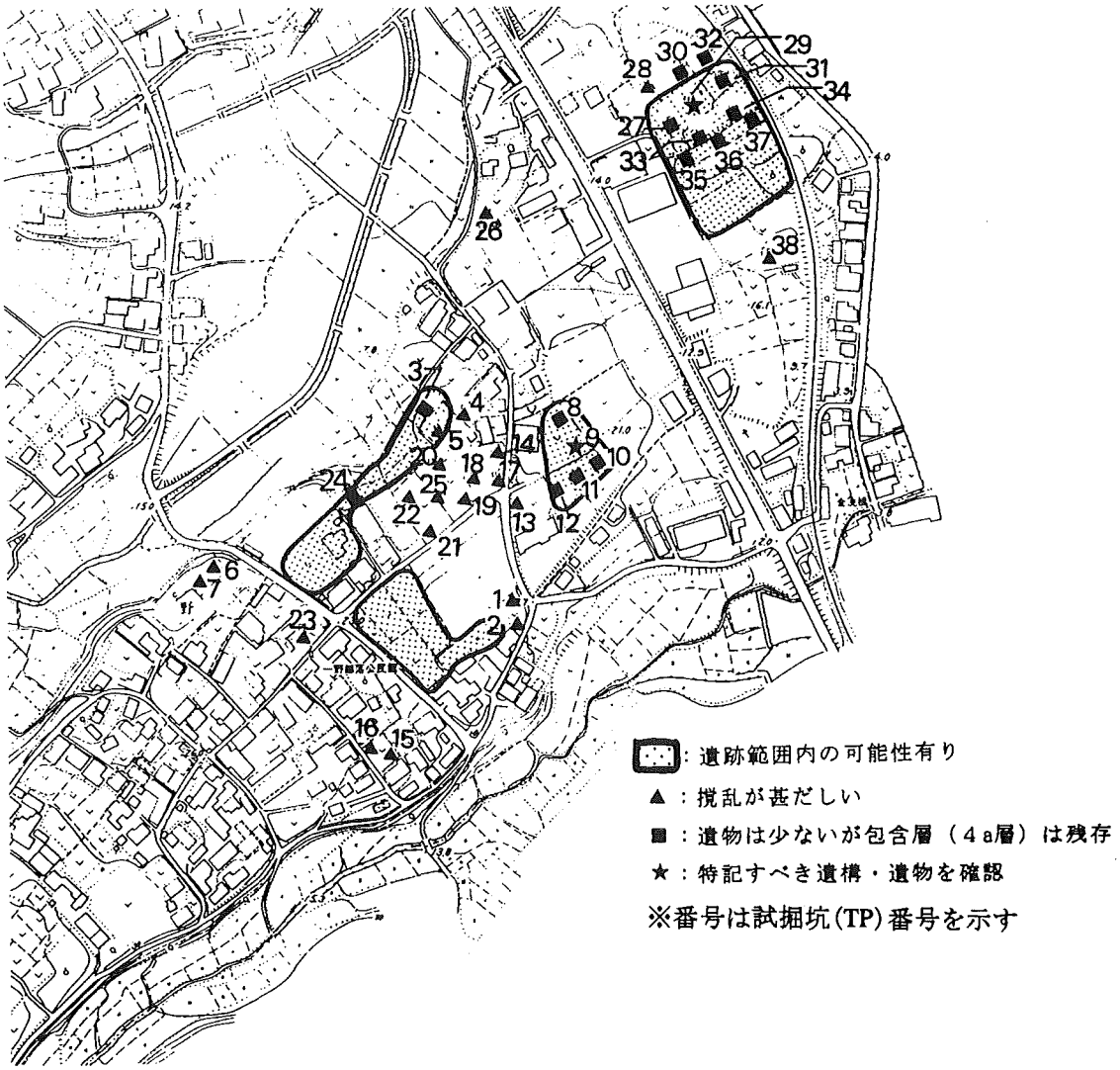
［調査担当：本田・中村］（文責：中村）



円筒形貝殻条痕土器（TP29区出土）



遺跡遠景（国道251号線よりTP１・２区付近をのぞむ）



調査区配置図

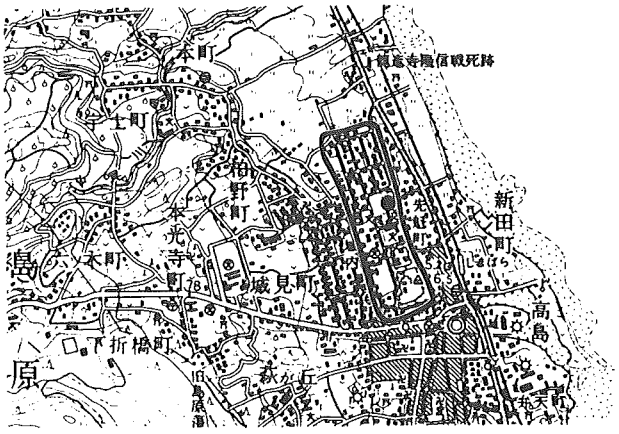
⑭ 森岳城跡（もりたけじょうあと）

所 在 地	島原市城内２丁目1130番地	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県立島原高校体育館改築	調査面積	1570㎡
調査期間	平成11年９月20日～12月10日（69日間）	調査区分	確認調査・本調査
報 告 書	平成13年度刊行	処　　置	調査後工事

立　地

森岳城（島原城）は，雲仙岳の東側裾野の森岳と呼ばれる丘に築かれた城であり，島原市のほぼ中央部に位置する。

城郭の構えは長方形を呈しており，外郭は東西四百九十間（約343ｍ）南北六百六十間（約1190ｍ）である。内郭は外郭の南側にかたより堀に囲まれて本丸・二の丸・三の丸に分かれている。今回調査した三の丸は城主の居住地区にあたる。現在は住宅及び小学校・高等学校が建てられている。



森岳城跡位置図〔島原〕（S＝1/50,000）

調　査

県立島原高校体育館改築工事に伴い，平成11年度に試掘・本調査を行った。

試掘は，７月５日～７月30日の期間128㎡を調査し，三の丸を囲む堀石垣と推定される石垣や建物の基礎と推定される石垣を試掘坑内に検出したため本調査に至った。

本調査は体育館改築区域に，東西を１区～５区とし南北をN10～N50の記号を付し10ｍ間隔のメッシュを設定し実施した。

土層は砂利層の表土の下に第２層として灰褐色土（近世土層），第３層は黒色火山灰土（中世土層），第4層は地山と確認した。遺構としては，１区で堀石垣及び断面径が約25ｃｍ，長さ約110ｃｍの円筒状の木材を使用した橋脚と礎石を確認した。２・３区は，中世の集石土坑４基，石列１基，石敷，近世の，建物跡石垣２棟，石列７基，石垣溝１基，この他に近代土坑１基が認められた。４・５区では，中世の集石土坑１基，土坑２基，柱穴62基を確認している。柱穴については３～４棟分の建物跡が想定される。

１～３区全景

出土遺物は，中世遺物として，中国明の時代（15～16世紀）の白磁・青磁・染付碗等の外に国産の土師器等が出土し，近世遺物は17～19世紀における国内産陶磁器及び瓦類・金属器類が出土している。

まとめ

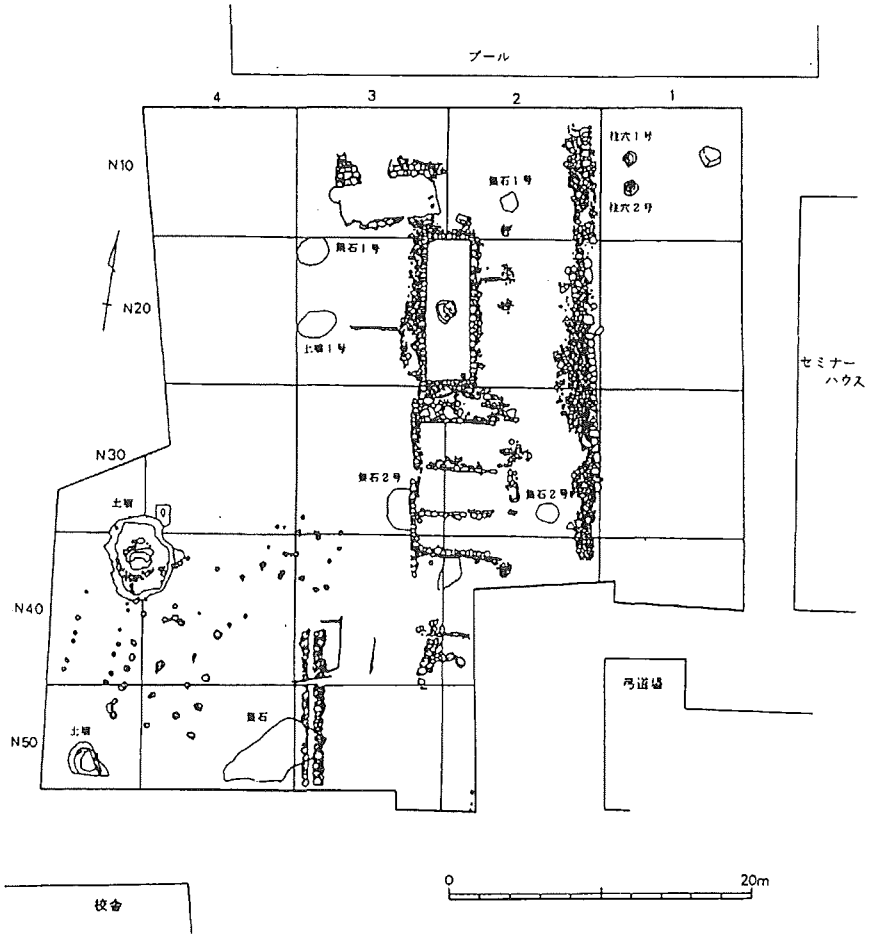
今回の調査の結果，柱穴群より15～16世紀代の明染付の陶磁器が出土しており，有力者が森岳城創建以前に居を構えていたことが確認された。

17世紀の創建時代の石列遺構，17世紀後半から18世紀は石敷の建物跡，堀及び堀石垣については，松平忠房が入封後の寛文13年（1673）に堀を築いていることが文献にあり，これを裏付けるものである。

また18世紀後半から19世紀前半の石垣地下倉庫及び水路にあたる遺構を確認した。

中世から近世における森岳城の歴史的変遷を遺構から確認し，記録措置を行った。

［調査担当：町田・福田・斉藤・高原］（文責：斉藤）

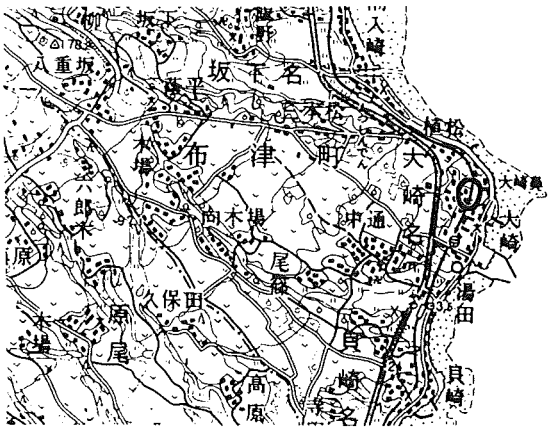


遺構配置図（S＝1/500）

⑮ 大崎鼻遺跡（おおさきばな）

所 在 地	南高来郡布津町大崎名金比羅神社	調査主体	布津町
調査原因	大崎鼻自然公園整備事業	調査面積	60㎡
調査期間	平成11年度10月19日～10月29日（９日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	刊行予定	処　　置	次年度本調査

立地・調査



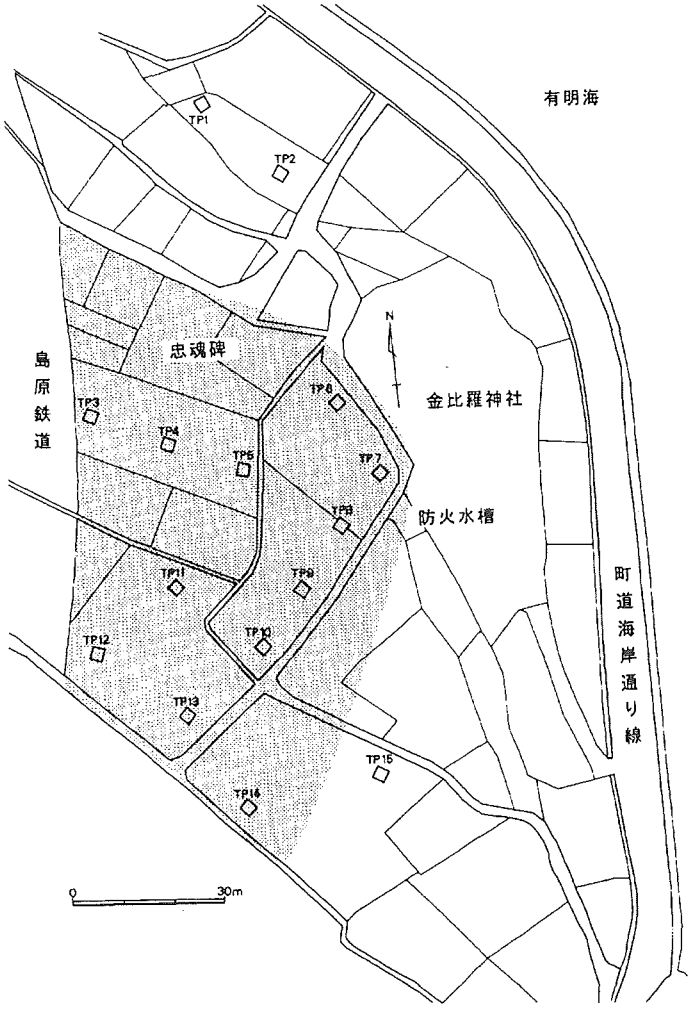
大崎鼻遺跡位置図〔雲仙〕（S＝1/50,000）

遺跡は島原半島に特有な火山麗扇状地の先端部に位置する。遺跡のすぐ北側を布津断層が走り，東側は断層崖となって有明海に面している。付近には金比羅神社が鎮座し，ここから南の布津小学校にかけて，島原鉄道沿線の緩やかな起伏を持った低丘陵が大崎鼻遺跡である。標高は，調査地点で13～14ｍを測る。昭和30年代，島原鉄道の切り通し部分で，押型文土器と竪穴跡が発見され，遺跡の存在を示す看板も当時はしてあったという。試掘坑（以下TPと略）は，金比羅神社と島原鉄道との間の，比較的平坦な場所を選定した上で，２ｍ四方のものを15ヶ所設定し，北から順にTP１～15と仮番号を付した。TP１と２は遺跡のある丘陵の北側斜面に位置する。いずれも近現代の撹乱が地下まで及び，包含層は確認できなかった。傾斜地を切り盛りして平坦地を造成し，畑地となしたのであろう。TP３～15は丘陵平坦部に位置する。高低差は１ｍ内外で，西から東に緩やかに傾斜している程度である。現在，忠魂碑が建つ裏手の雑木林地がやや高いが，試掘坑を設定することはできなかった。TP３～14は表土下に明褐色の遺物包含層が確認でき，縄文早期の押型文土器が出土した。特にTP３～10は包含層の堆積状況も良好で，この遺跡の中心的な地点のひとつにあげられる。ただし，TP７の東側では部分的に撹乱がみられ，丘陵端部に沿って点在する民家の影響も考慮すると，本遺跡の東限はこの辺りに求められそうである。TP11～13は表土の耕作土が厚く，ゴボウ作付けに伴うトレンチャーの爪痕も包含層にまで達しており，遺存状況はあまり良くない。実際にTP11の包含層からは石鏃や磨製石斧が出土し，遺物の種類は他よりも豊富であったが，近世の陶磁器類も混在するなど，撹乱を受けた形跡が窺えた。TP13では遺物包含層自体は確実に存在するものの，土器などの遺物は出土しなかった。TP14もTP11と同様で，遺物は出土するものの，包含層は撹乱気味であった。民家に最も近いTP15にいたっては，南東部分が大きく撹乱を受けており，包含層はほとんど残存していなかった。遺跡の東限がTP７からTP14の付近にあるものと判断される。

遺物は縄文早期の押型文土器が大半である。一野遺跡（有明町）で見られるような円筒形条痕文土器もあり，TP１・２・13を除いた全ての地点から出土している。土器に比べて，石器の出土は極めて少

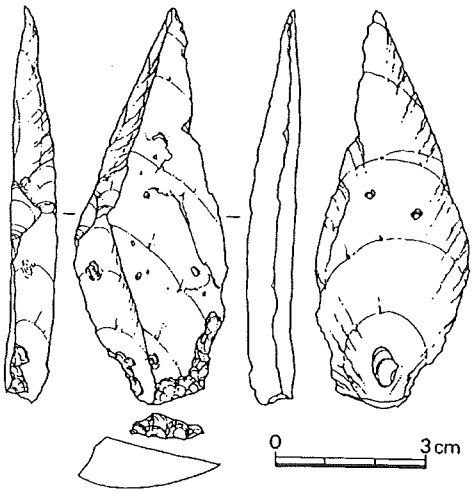
ない。TP 3 では押型文土器と共にサヌカイト製ナイフ形石器が 1 点出土した。サヌカイトの剥片は TP13でも 1 点出土している。黒曜石では，TP13で石鏃が1点出土した。剥片は TP 7・8 で数点見られるにすぎない。頁岩製かと思われる磨製石斧はTP11で出土した。TP15に近い民家の方からは，蛇紋岩製の磨製石斧を 2 点頂いた。自宅付近の溝の中から表採したという。縄文早期の遺物とは考えにくく，時期の異なる包含層が存在した可能性もある。以上の事から，試掘坑配置図に示す網掛け部分については本調査が必要であり，TP15付近は遺跡隣接地として工事立会を要すると判断した。

［調査担当：本田・中村］（文責：中村）



試掘坑配置図

遺跡遠景



サヌカイト製ナイフ形石器（TP 3 区出土）

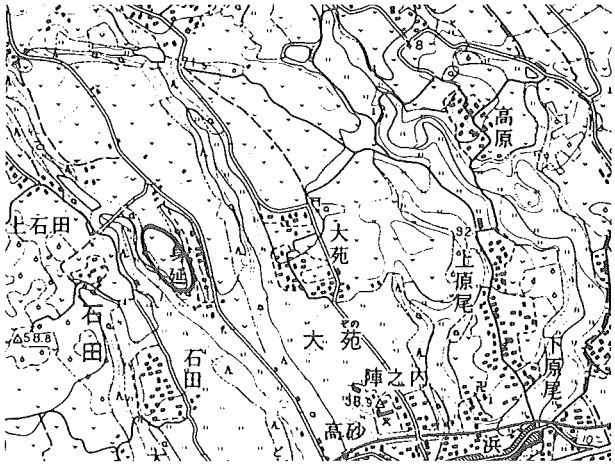
⑯ 東田原遺跡（ひがしたばる）

所 在 地	長崎県南高来郡有家町大字大苑	調査主体	有家町教育委員会
調査原因	農道改良	調査面積	36㎡
調査期間	平成11年8月23日～8月27日（5日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	刊行予定なし	処　　置	調査後工事

立　地

東田原（身延）遺跡は，有家町の東部，標高60mに位置する。遺跡は島原半島に一般的な火山性の台地上に位置する。

調査地点は現在はタバコ畑になっており，一見すると広い台地のように見える。しかし調査の結果，台地中央にはかつて谷が走っており，近世以降に谷が埋没し，畑となったことが窺えた。



東田原遺跡位置図〔雲仙〕（S＝1/25,000）

調　査

当初は10箇所の試掘坑を設定したが，8箇所に減じた。したがって第1試掘坑と第10試掘坑は欠番である。第2試掘坑は若干の客土の下は地山であり，遺物の出土はなく，遺構の検出もない。第3試掘坑は耕作土（黒色土）の下は黄褐色土層である。同層より縄文晩期土器片3点を出土した。同層からはピットも検出した。第4試掘坑は第3試掘坑と同様の黄褐色土層を確認したが，二次堆積の可能性がある。ここでもピットを検出した。第5，6試掘坑の状況は第4試掘坑と同様であった。遺構，遺物の出土はない。第7，8，9は第2試掘坑と同様な状況で，黄褐色土は存在しない。遺構，遺物の出土もない。

まとめ

今回の範囲確認調査では，8箇所の試掘坑のうち3箇所で縄文晩期前葉の土器が出土した。遺構としては2箇所の試掘坑で，計4基のピットを検出した。しかしながら遺物の出土量がきわめて少数で，かつ土器を含む層は，二次堆積の可能性もある。また，現在の町道の南側は後世の耕作により削平されている。

［調査担当：古門・田中］（文責：古門）

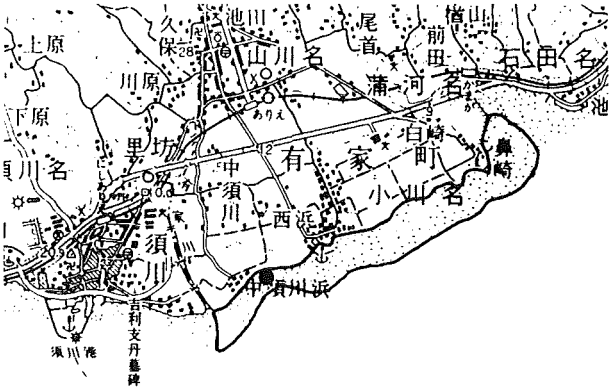
遺跡遠景

⑰ 蒲河（かまが）遺跡

所 在 地	南高来郡有家町蒲河名	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	港湾整備	**調査面積**	36㎡
調査期間	平成11年７月26日～７月30日（５日間）	**調査区分**	確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

有家町は，島原半島の南東側に位置し，遺跡は標高－３～２ｍの海岸に位置する。現在遺跡は，大小の礫が散乱しているが，干潮時には有明海特有の干潟が沖合に姿をあらわす。干満の差が著しいことで知られる有明海特有の地にあって，遺跡の性格もまた特殊な性格を帯びたものとして捉えられる。



蒲河遺跡位置図〔須川〕（S＝1/50.000）

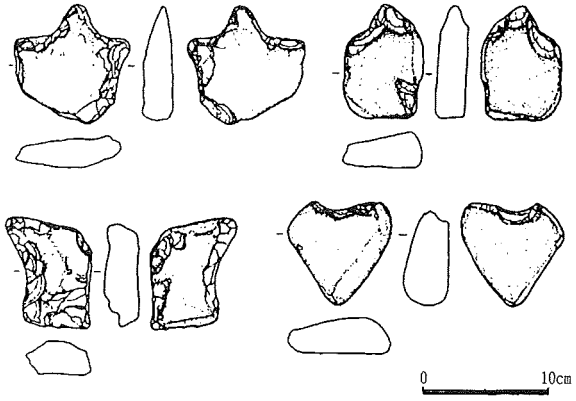
調　査

調査は範囲確認調査であることから，２×２ｍのグリッドを基本に９箇所設定した。表面には拳大の安山岩礫が多量に流れ込み，その下に砂礫層を確認した。砂礫層の下は黄褐色の粘土層で，阿蘇Ⅳの堆積物と判断した。今回の試掘壙すべてが同じ状況にあり，包含層は確認できなかった。

蒲河遺跡の範囲は，表面から礫器が多量に採取されることからかなりの範囲が遺跡としてゾーニングされている。過去４回の調査からすれば，良好な包含層の確認にまでは至っていない。これはひとえにこの地が生活の場としてではなく，貝類の採捕の場という機能に終止したからに相違ない。長崎県下でも海岸部でこの遺跡ほど礫器が採集される場所はないことは，当時の有明海沿岸の漁業の特性を表しているのであろう。

今回の調査で白ないし黄褐色の粘土層を確認した。この粘土層は，阿蘇Ⅳと考えられ干潮時に島原半島東側の海岸で確認される。島原市の景華園跡の調査時にも確認されるなど，島原半島東部海岸で粘土化して堆積しているものと考えられる。島原半島の基本層序の中にこの阿蘇Ⅳを位置づける必要があり，古い石器群調査時には一つの鍵層として捉える必要がある。

［調査担当：福田］（文責：福田）



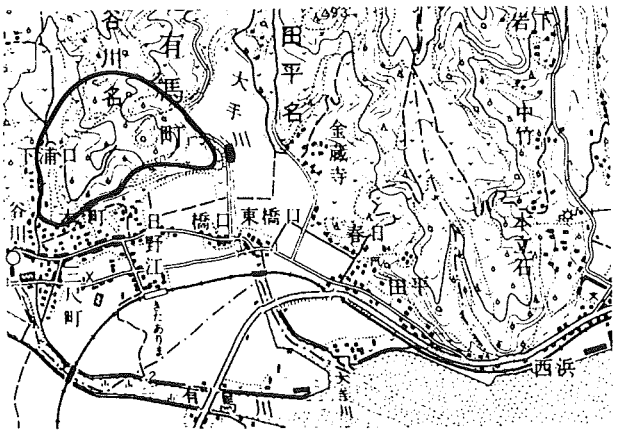
蒲河遺跡表採の礫器

⑱ 日野江城跡（ひのえじょうあと）

所 在 地	南高来郡北有馬町大字谷川名	**調査主体**	北有馬町教育委員会
調査原因	駐車場造成	**調査面積**	95㎡
調査期間	平成11年5月10日～5月31日（15日間）	**調査区分**	試掘調査
報 告 書	未定	**処　　置**	調査後埋戻し

立　地

日野江城のある低段丘東側を流れる大手川は南流して有明海に注ぐ。城への出入りを考えると，直接的に海へとつながるこの河川は旧来から城の大手口と推定されていた。



日野江城跡位置図〔須川〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は日野江城東端と大手川にはさまれた休閑地で，史跡範囲から除外されている部分で行われた。調査区は河川と城をむすぶルート上にあり何らかの遺構の存在が考えられることから，試掘壙は川と直行するように5箇所設定した。

調査の結果，削平した岩盤上に配された2筋の石列と，それに並行するピット列を確認した。また，調査区の北端部分では大手口とも思われる階段が設けられていた。

石列は大手川に平行して南北に延び，35m前後は遺存しているようである。石列に使用されている石材はかなり大きなもので，それぞれ表土下80cmと190cmの異なったレベルで見つかった。高低差のある2列の石列は川の水位に応じた船着き場か，護岸の役割を果たしていたものと考えられる。

調査区北端の階段遺構は2段目まで確認され，それ以上は道路舗装で削平を受けているものの，幅約4m，階段の間隔約70cm，階段の高さ約10cmを測る。この数値はこれまでの日野江城発掘調査で出土した階段遺構と共通し，約80mにも及ぶ直線階段が設けられていたことになる。また，階段遺構の基礎部分には梯子胴木が組まれていたことを窺わせる遺構も存在し，大手川から登城するため入念な作りが施されていたことがわかる。

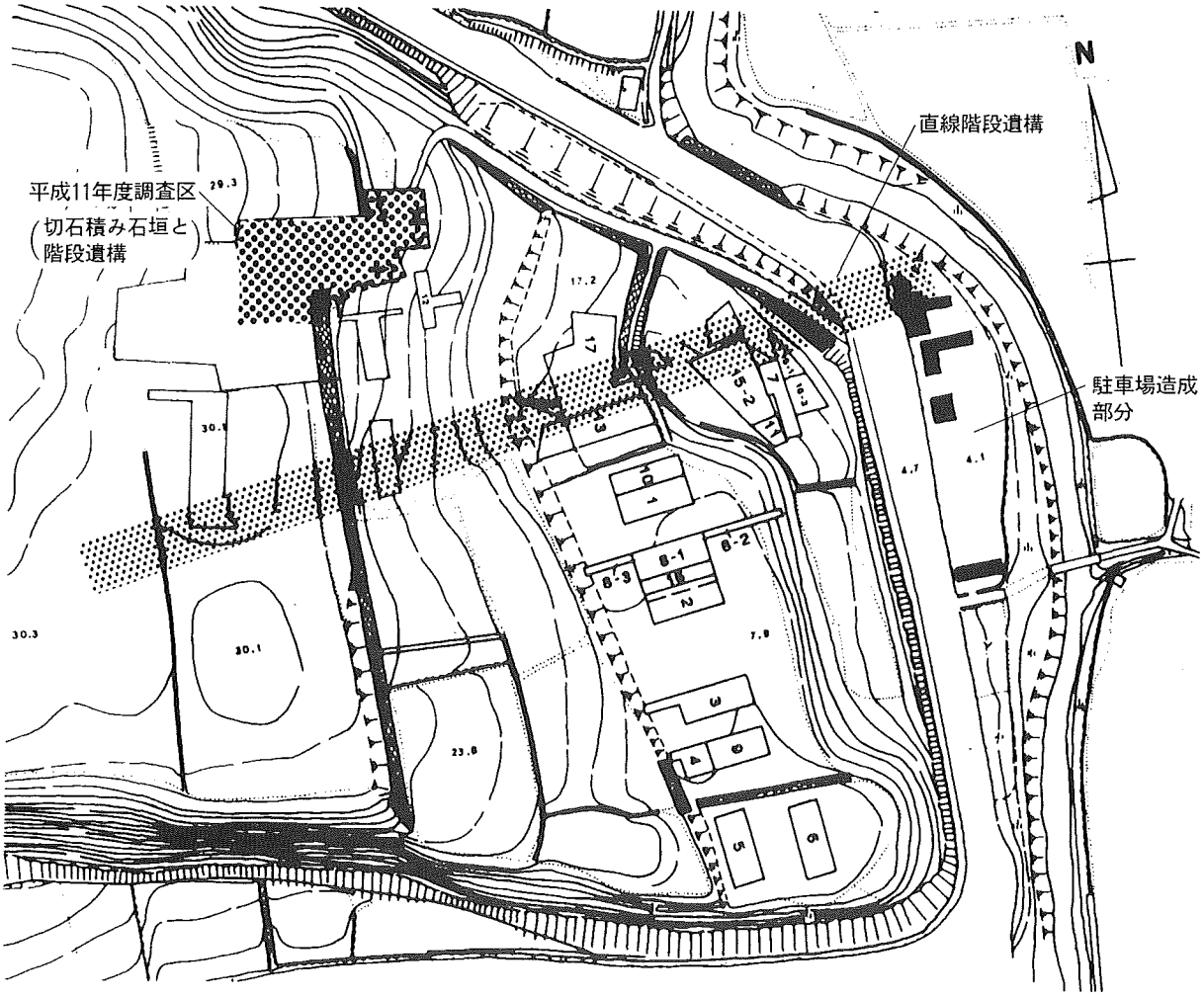
遺物は比較的少なく，瓦片の他に瓦質土器・龍泉窯系青磁碗・明代の青花磁器片などが見られれる程度で，遺構に伴って出土したものはない。ただ直線階段に付随する施設の可能性が高いことを考慮すると概ね16世紀末頃と考えたい。

まとめ

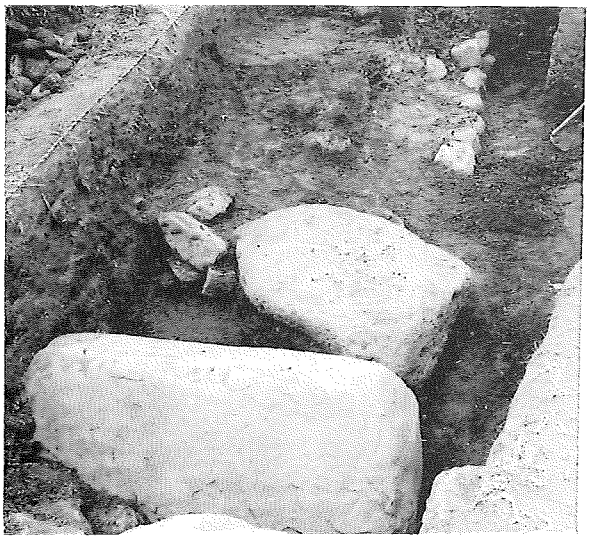
今回検出された遺構は河川と城の連続性といった見地からすると，河川がどのような役割を果たしていたのか考える上で興味深い遺構であるといえよう。日野江城の史跡指定地外にも遺構の広がりが

想定できたことの意義は大きく，今後城外へ通じる出入口等の所在や外郭線の構造を明らかにして，日野江城下町の形成や城の縄張りについても再検討すべきであろう。

［調査担当：木村（北有馬町教育委員会）　調査指導：本田］（文責：本田）



調査区位置図（S＝1/1000）



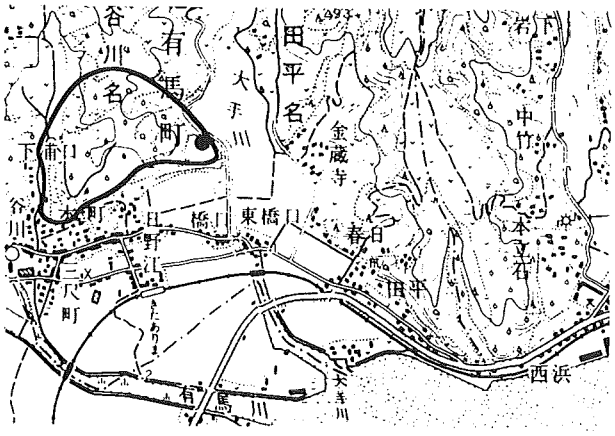
階段遺構と石列

⑲ 日野江城跡（ひのえじょうあと）

所 在 地	南高来郡北有馬町大字谷川名	調査主体	北有馬町教育委員会
調査原因	遺跡整備	調査面積	181㎡
調査期間	平成11年7月6日～9月30日（39日間）	調査区分	確認調査
報 告 書	未定	処　　置	現状保存

立　地

日野江城は戦国大名有馬氏の本城で，標高78mの低丘陵を利用した山城である。城の東西を大手川・浦口川がそれぞれ流れ，前面には市街地をはさんで有明海が広がる。



日野江城跡位置図〔須川〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は平成7年度より継続して行われているが，今年度は昨年確認された切石積み石垣と階段遺構北側の精査を目的に実施された。掘り残していた土砂を重機で除去しながら調査をすすめていくと，大量の栗石に埋没している切り石積み石垣の残骸が見つかった。しかしながら遺存状態は悪く，凝灰岩切石の根石が数個残る程度で，上部の積石は完全に破壊された状態であった。隅角石は残っていなかったが，現在露出している北西部の石垣に連続するものと判断される。また，石垣は整形した地山の上に複数回土をのせて整地した後，栗石を詰めて構築していったことがわかった。切石積み石垣と乱積み石垣の関係については，それぞれの根石を載せた地山に隅木の杭が施され，同時期に石垣構築が行われていたことを窺わせる。

この他，階段遺構前面（西側）には灰褐色の整地層があり，砂岩質の切石を並べた2条の石列が走っていることも新たに判明した。

まとめ

切石積み石垣の周辺は金箔瓦の出土等，これまでも重要な遺構・遺物が見つかっている。日野江城の解明のためにはこの一帯の精査は欠かせず，今後の調査成果が期待される。

［調査担当：木村（北有馬町教育委員会）
調査指導：本田］（文責：本田）

切石積み石垣遺構と階段遺構

Ⅲ　平成11年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
1	辻第3遺跡	平戸市		○							d							○	○
2	大野第2遺跡	平戸市		○							d							○	
3	西中山遺跡	平戸市		○							d							○	○
4	牟田遺跡	平戸市	○																○
5	蒲河遺跡	有家町		○								A		○					
6	芦見遺跡	上対馬町				○			○			A		○					
7	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	B	○					○	
8	平山遺跡	諫早市			○	○					d	A	○				○		
9	天水遺跡	石田町			○				○	○	d							○	○
10	牛神遺跡	勝本町			○						d	A		○				○	
11	カラカミ遺跡	勝本町			○						d	A		○				○	
12	国柳遺跡	勝本町			○						d	A		○				○	
13	玖島城跡	大村市								○		A/A		○					
14	石田城跡	福江市								○	d	A		○				○	
15	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	A	○					○	
16	豊大畑遺跡	上対馬町				○						D		○					
17	黒丸遺跡	大村市	○	○	○	○	○	○	○	○	d							○	○
18	黒丸遺跡	大村市	○	○	○	○	○	○	○	○	d							○	○
19	日野江城跡	北有馬町								○									○
20	龍王遺跡	国見町			○	○	○	○			d	E				○		○	○
21	樋ノ口遺跡	国見町			○	○	○	○			d	E				○		○	○
22	真正寺条里跡	国見町					○	○			d	E				○		○	
23	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						C	○						
24	平山Ａ遺跡	長崎市		○								A	○						
25	石原遺跡	国見町				○	○	○	○		d	A		○				○	○
26	矢房遺跡	国見町				○	○	○	○		d	A		○				○	○
27	勝雄嶽城跡	平戸市							○			C	○						
28	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
29	荒瀬遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
30	森岳城跡	島原市								○	d	A		○				○	○
31	長崎奉行所跡	長崎市								○		D		○					
32	根獅子遺跡	平戸市			○						d							○	
33	唐人屋敷跡	長崎市								○	a・b							○	
34	帯取遺跡	大村市		○								A	○						○
35	帯取遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
36	下大垣遺跡	平戸市		○								A	○						
37	潮登遺跡	平戸市		○								C	○						
38	井出平城跡	佐世保市							○			A	○						○
39	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
40	葛城堤遺跡	大村市				○					d	A	○					○	
41	永田遺跡	田平町		○								C	○						
42	鉢形遺跡	郷ノ浦町			○							A		○					
43	深堀遺跡	長崎市		○	○	○				○		A		○					
44	坂本遺跡	松浦市	○	○							d	A	○					○	
45	池田遺跡	松浦市		○	○				○		d	A	○					○	
46	坂口・横道遺跡	大村市		○								D	○						
47	釜ノ島遺跡	時津町		○								A		○					
48	時津北小学校遺跡	時津町			○							A		○					
49	興触川上遺跡	芦辺町							○		d							○	
50	稲佐台場跡	長崎市								○		A		○					
51	中島遺跡	福江市		○							a						○		○
52	上野遺跡	鹿町町		○								A		○					
53	小船遺跡	松浦市	○						○			D		○					
54	坂口・横道遺跡	大村市		○								D	○						
55	長畑馬場遺跡	大島村	○	○	○						d	A		○				○	○
56	上諏訪山田遺跡	大村市			○				○	○		E				○			
57	大上戸川条里跡	大村市						○				D	○						
58	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
59	原の辻遺跡	芦辺町			○	○													○
60	閨繰遺跡	芦辺町			○														○
61	坂口・横道遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
62	長畑遺跡	鷹島町	○	○	○							C	○						
63	長畑遺跡	鷹島町	○	○	○							C	○						

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
64	豊館跡	上対馬町							○			A		○				○	○
65	玖島城跡	大村市								○	d							○	○
66	山田原遺跡	吾妻町		○								A		○					
67	中熊遺跡	吾妻町			○							A		○					
68	下峰原高場遺跡	諫早市	○	○								E				○			
69	長与堂崎遺跡	長与町	○									C	○						
70	冷泉遺跡	大村市				○					d	A	○					○	○
71	根引池遺跡	江迎町	○								d							○	○
72	玖島城跡	大村市								○		C		○					
73	大河内原遺跡	南有馬町				○					d							○	
74	戸町番所跡	長崎市								○		C	○						
75	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	A	○					○	
76	西中戸遺跡	崎戸町		○	○	○						C		○					
77	景華園遺跡	島原市			○							C	○						
78	大村館墓地	大村市							○		d	A	○					○	
79	清水山遺跡	有明町		○							d							○	
80	杭出津遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
81	野田B遺跡	大村市	○								d	A		○				○	
82	立石遺跡	有川町		○								D		○					
83	時津北小学校遺跡	時津町			○							C		○					
84	高火頭遺跡	西海町		○								A		○					
85	こも田洞穴	佐世保市				○					a	E				○	○		○
86	牽牛崎洞穴	佐世保市				○					a	E				○	○		○
87	大野原遺跡	有明町		○	○							D		○					
88	興善町遺跡	長崎市								○	d							○	
89	竹松遺跡	大村市		○	○						d	A	○					○	
90	石田遺跡	西海町		○								A		○					
91	勝山町遺跡	長崎市								○	d							○	
92	風観岳支石墓群	諫早市		○	○						a							○	
93	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
94	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
95	山田城跡	吾妻町							○			D		○					
96	葛城堤遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
97	冷泉遺跡	大村市				○						C		○					
98	皆同郷古城石棺	大村市				○						C		○					
99	葛城堤遺跡	大村市	○									C		○					
100	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						C		○					
101	金田城跡	美津島町					○												○
102	鶴亀鬼屋古墳	芦辺町				○						A	○						
103	風観岳支石墓群	大村市		○							d							○	
104	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d	A		○				○	○
105	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d	A		○				○	○
106	飯盛鬼塚古墳	飯盛町				○					d	E				○		○	○
107	野岳平遺跡	大村市		○								D	○						
108	野岳平遺跡	大村市		○								D	○						
109	鏡山遺跡	大村市	○									D	○						
110	清水遺跡	大瀬戸町		○						○	d							○	○
111	クワバル古墳	豊玉町				○													○
112	二本枦遺跡	深江町		○	○	○						E				○			○
113	西千本松遺跡	平戸市		○								C	○						
114	柏原古墳一号墳	森山町				○					d	A		○				○	○
115	古城跡	長崎市							○	○		A	○					○	
116	桐古里遺跡	若松町		○	○	○					d							○	○
117	中ノ瀬遺跡	松浦市		○	○							D	○						
118	佐世保崎遺跡	松浦市	○									D	○						
119	大石A遺跡	松浦市	○	○								D	○						
120	寺ノ尾A遺跡	松浦市	○	○	○							D	○						
121	大石A遺跡	松浦市	○	○								D	○						
122	宮ノ下リ遺跡	松浦市	○	○		○			○		d	A	○					○	○
123	石田城跡	福江市								○		C		○					
124	寺ノ尾A遺跡	松浦市	○	○	○							D	○						
125	玖島城跡	大村市								○		C	○						
126	曲遺跡	長崎市		○							d							○	

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
127	入口遺跡	平戸市		○								B	○						
128	中高野遺跡	大村市		○							d							○	
129	葛城堤遺跡	大村市	○								d							○	
130	五島町遺跡	長崎市								○	d	E				○		○	
131	浜田遺跡	石田町					○	○											○
132	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A		○					
133	岸田池遺跡	松浦市	○	○								D	○						
134	葛籠池遺跡	松浦市	○	○								D	○						
135	大崎鼻遺跡	布津町		○							d							○	○
136	大米古墳	郷ノ浦町				○													○
137	戸町番所跡	長崎市								○		D	○						
138	日本二十六聖人殉教地	長崎市								○		C		○					
139	天神下第2遺跡	平戸市		○								A	○						
140	通野遺跡	有家町		○	○	○					d							○	
141	大苑遺跡	有家町		○	○	○					d							○	
142	東田原遺跡	有家町		○	○	○					d							○	
143	宮野遺跡	有家町		○	○						d							○	
144	下木場遺跡	有家町		○	○	○					d							○	
145	栢ノ木遺跡	松浦市			○						d	A	○					○	○
146	上原遺跡	有川町		○	○							A		○					
147	唐人屋敷跡	長崎市								○	d	A		○				○	
148	宮ノ下り遺跡	松浦市		○					○		d							○	○
149	玖島城跡	大村市								○		C	○						
150	冷泉遺跡	大村市				○						C		○					
151	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d							○	
152	桜町遺跡	長崎市								○		C	○						
153	西坂遺跡	長崎市				○						C/C		○					
154	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
155	古園遺跡	松浦市		○					○		d	A	○					○	
156	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
157	一野遺跡	有明町		○	○	○													○
158	東田原遺跡	有家町		○								D		○					
159	猪ノ瀬遺跡	国見町		○					○		d	A		○				○	○
160	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		b						○		
161	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
162	雄ヶ原黒岩墓地	大村市								○	d	E/A		○		○		○	○
163	堂崎遺跡	長与町	○									D		○					
164	津崎遺跡	松浦市	○	○								D	○						
165	刈萱城跡	松浦市						○	○		d	A		○				○	
166	上野遺跡	鹿町町	○	○							d							○	
167	庄野の六地蔵塔	松浦市							○			D	○						
168	妙観寺跡中世墓碑群	佐世保市							○			E				○			
169	十園遺跡	国見町			○	○						D		○					
170	小中野A遺跡	国見町			○	○	○	○				D		○					
171	小中野B遺跡	国見町			○	○	○	○				D		○					
172	平尾第2遺跡	松浦市	○								d							○	○
173	車出遺跡	郷ノ浦町			○														○
174	興善町遺跡	長崎市		○						○		C	○						
175	金石城跡	厳原町							○	○									○
176	庄司屋敷遺跡	有明町			○				○									○	
177	大野城跡	有明町							○									○	
178	甘木遺跡	有明町			○	○												○	
179	上大垣遺跡	平戸市	○	○	○							C	○						
180	平野遺跡	福島町	○	○								A		○					
181	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
182	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
183	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
184	玖島城跡	大村市								○		C		○					
185	石田城跡	福江市								○		C		○					
186	蓮蔵寺遺跡	大村市		○								C		○					
187	ツバ崎遺跡	平戸市		○								C	○						
188	権現脇遺跡	深江町		○								D		○					
189	権現脇遺跡	島原市		○								D		○					

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	認定
190	南上木場遺跡	島原市		○	○							D		○					
191	三重台場跡	長崎市								○		C		○					
192	桜町遺跡	長崎市								○		C		○					
193	御伊勢堂遺跡	大村市		○								D	○						
194	長畑遺跡	鷹島町	○	○								C		○					
195	神脇遺跡	鷹島町	○	○								D		○					
196	後道遺跡	鷹島町	○	○								C		○					
197	兵衛次郎の墓	鷹島町							○			C		○					
198	中谷遺跡	南有馬町		○							d							○	
199	横手遺跡	佐世保市	○	○								C		○					
200	夫婦石遺跡	上県町		○								C		○					
201	日野江城跡	北有馬町							○		d	A		○				○	
202	三股本登窯跡	波佐見町								○	d							○	○
203	富の原遺跡	大村市			○							B	○					○	
204	城山の台場跡	大瀬戸町								○		D		○					
205	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
206	椎山遺跡	西有家町		○							d							○	
207	慈恩寺跡	西有家町							○		d							○	
208	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d							○	○
209	野岳平遺跡	大村市	○	○								D	○						
210	鏡山遺跡	大村市	○	○								D	○						
211	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	○
212	原の辻遺跡	石田町			○						d							○	○
213	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	
214	平の山A遺跡	島原市		○							a						○		
215	小佐古B遺跡	大村市				○					d	A	○					○	
216	広平遺跡	大瀬戸町		○															
217	宮下貝塚	富江町		○								A	○						
218	相川屋敷跡	長崎市								○		C	○						
219	平山遺跡	世知原町		○								D		○					
220	手熊貝塚A	長崎市		○	○	○						A	○						
221	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
222	東鷹野遺跡	有明町		○								E				○			
223	田口高野遺跡	松浦市	○															○	○
224	富の原遺跡	大村市			○							A	○						
225	蔦木遺跡	大村市			○	○						A	○						
226	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d							○	
227	世知原氏館跡	世知原町							○		d	A		○				○	
228	三根遺跡	峰町			○	○						E				○			
229	深堀遺跡	長崎市		○	○	○	○	○	○	○		A		○					
230	清水山遺跡	有明町		○								A		○					
231	原の辻遺跡	石田町			○				○			A		○					
232	原の辻遺跡	芦辺町			○				○			A		○					
233	石原遺跡	国見町				○	○	○	○		d							○	○
234	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	A	○					○	
235	日向平遺跡	大村市		○							d	A	○					○	
236	黒丸遺跡	大村市			○	○	○	○	○			D	○						
237	小佐古B遺跡	大村市				○					d	A	○					○	
238	日野江城跡	北有馬町							○									○	
239	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
240	菅牟田遺跡	平戸市	○																
241	根獅子遺跡	平戸市			○														
242	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		A							○
243	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	
244	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d							○	
245	三根遺跡山辺区	峰町			○	○					d						○		

・一覧表の通し番号は，文書の届け出順を基準とする。
・時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈，平安時代→平，鎌倉・室町・戦国時代〔中世〕→中，江戸時代〔近世〕→近 としている。
・原因については，a→学術調査，b→遺跡整備，c→自然崩壊，d→開発事業 に伴う調査を示す。
・結果については，A→発掘調査，B→範囲確認調査，C→工事立会，D→慎重工事，E→発見届，F→厳重注意 としている。

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 8
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第158集
編著者名	山口 浩司
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2－13 TEL 095－824－1111
発行年月日	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
石田城跡 など 19遺跡	長崎県 福江市 池田町など							

長崎県文化財調査報告書　第158集

長崎県埋蔵文化財調査年報

（平成11年度調査分）

平成13年3月31日

発　　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2-13

印　　刷　イナサプリント